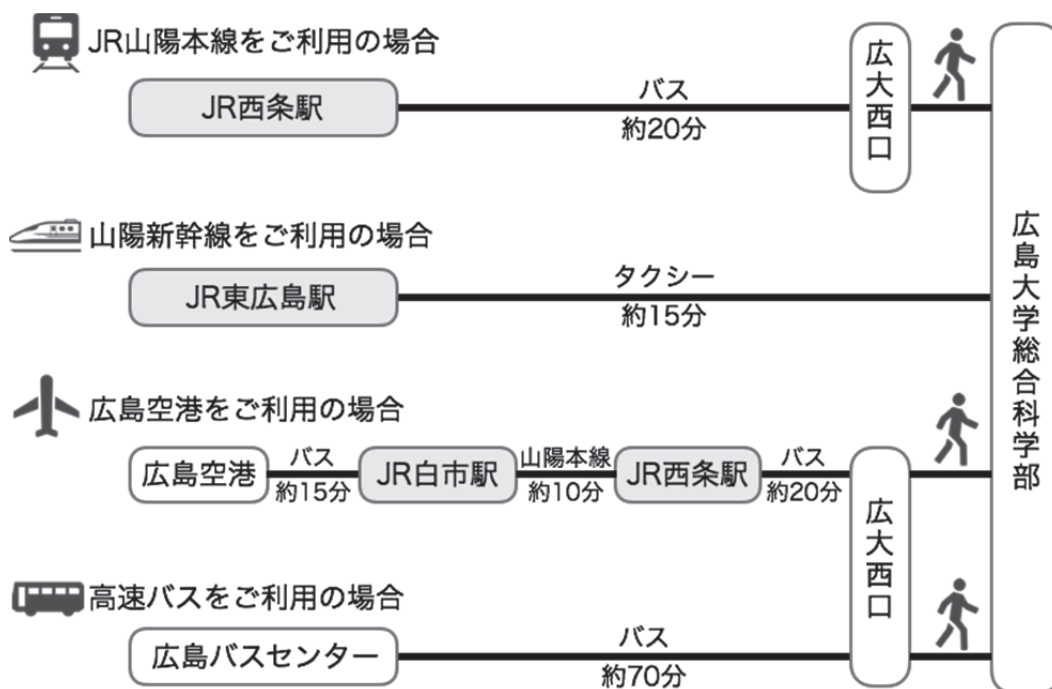


## 大会会場への交通案内①



### ご注意

#### JR 山陽本線をご利用の場合

- JR「西条」から広島大学行のバスにご乗車の上、「広大西口」で降車してください。「西条」からはバスで約 20 分（片道 290 円）です。タクシーをご利用の場合は約 15 分（片道約 2000 円）です。
- 大会期間中は「西条」からのバスの臨時便を増発する予定です。詳しくは大会 Web サイトをご覧ください。

#### 山陽新幹線をご利用の場合

- 「東広島」からタクシーをご利用ください。約 15 分、約 2000 円です。会期中(土日・祝日ダイヤ)は、「東広島」からはバスが運行していませんのでご注意ください。

#### 広島空港をご利用の場合

- バスで JR「白市」に向かい（約 15 分、390 円）、「白市」から JR 山陽本線で「西条」に向かってください（約 10 分、片道 200 円）。その後、広島大学行のバスに乗り、「広大西口」で降車してください。

#### 広島市内から高速バスをご利用の場合

- 広島バスセンター等で広島大学行にご乗車の上、「広大西口」で降車してください。広島市内から約 70 分、片道 870 円です。本数が少ないので、ご注意ください。

※ 詳しいアクセスの方法や時刻表は、広島大学ホームページでご確認ください。

※ 車でのご来場はご遠慮ください。

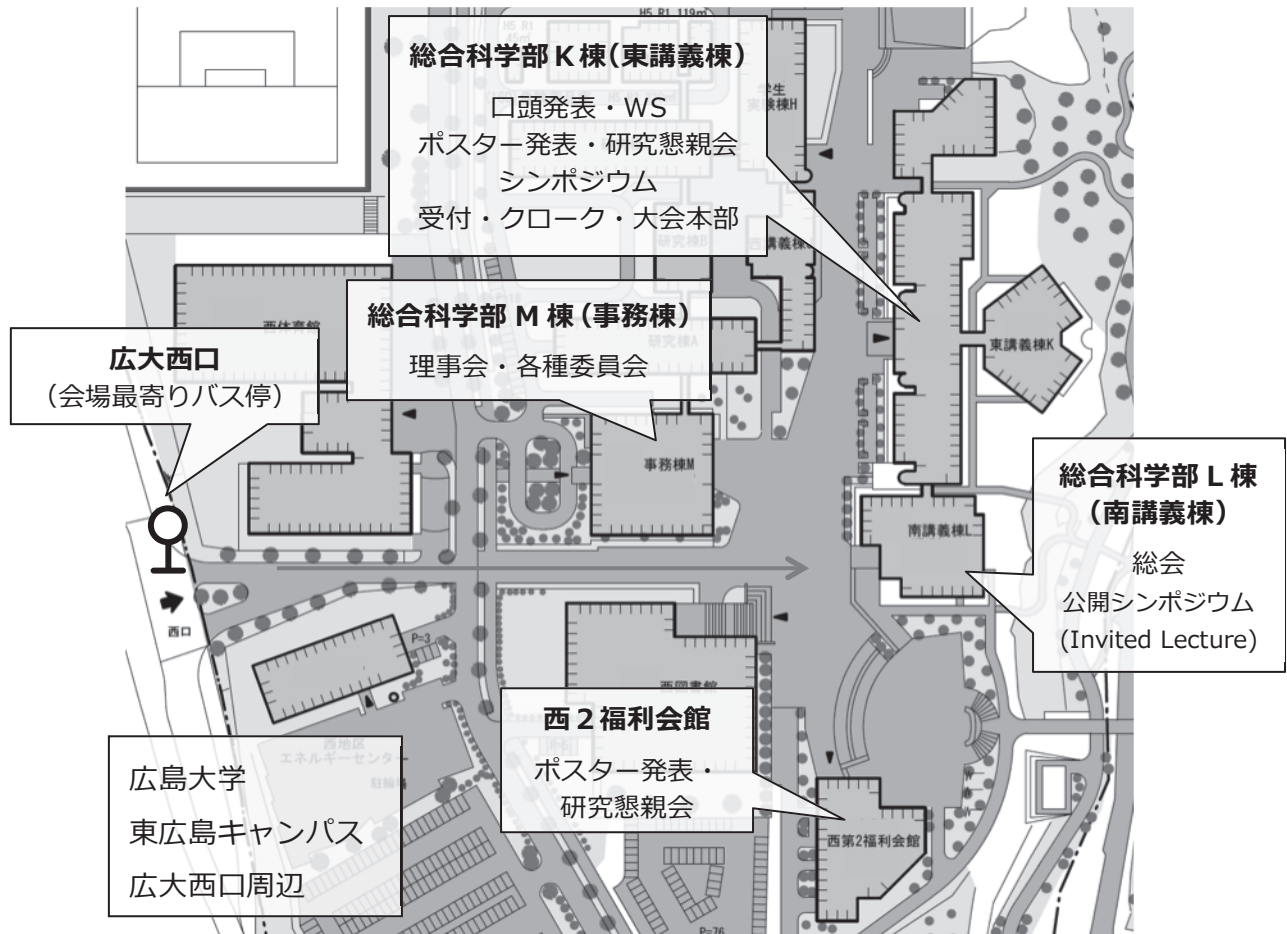
## 大会会場への交通案内②



### ご注意

- 会場へはバス「広大西口」が最寄りのバス停になります。
- 広島大学⇄西条駅行のバスは、広島大学東広島キャンパスを反時計回りに一周し、西条駅と広島大学を往復しています。
- 会場は広島大学東広島キャンパスの南に位置しています。近隣にコンビニエンスストア、売店等はありませんのでご注意ください。10月28日土曜日(10～18時)のみ、アンデルセン系列のマーメイドカフェが軽食を提供しています。最寄りのコンビニエンスストアは、バス停「広大中央口」から北側へ約5分程度歩いたところにあるセブンイレブンになります。

会場案内平面図



JR バス「広大西口」バス停から、直進して下さい。

K 棟と L 棟はつながっています。

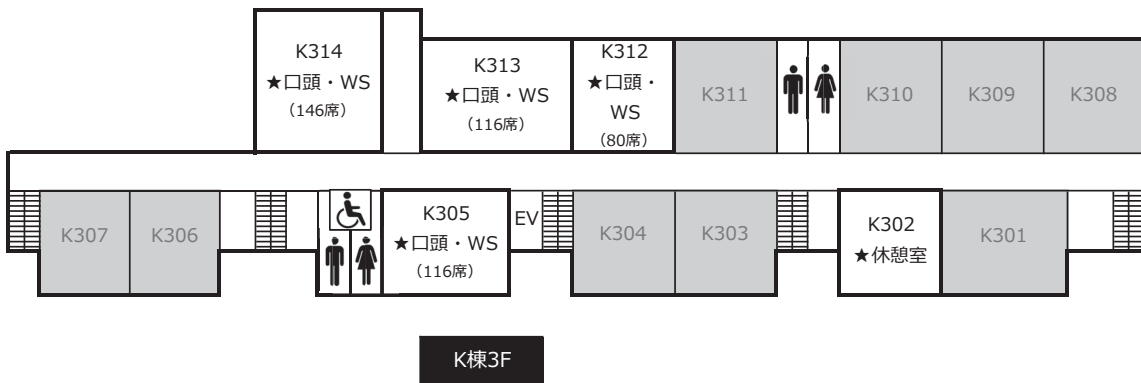
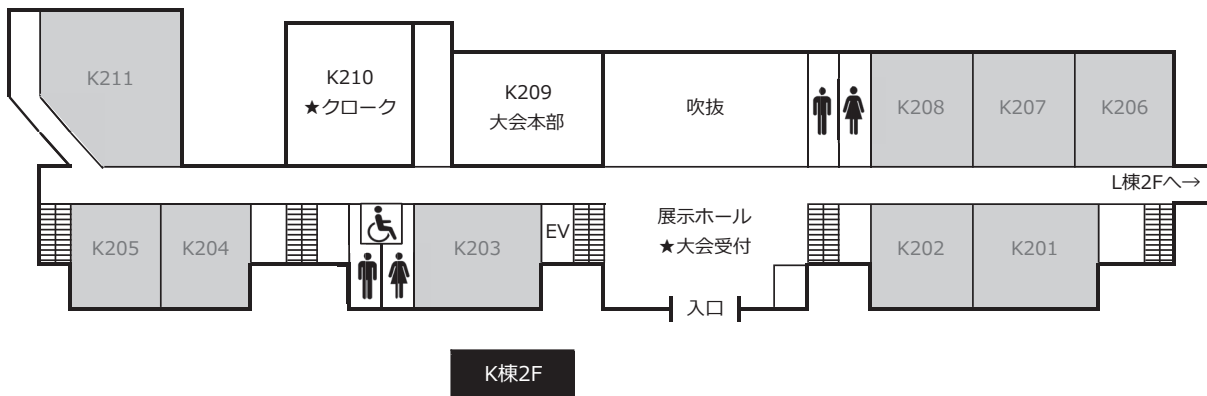
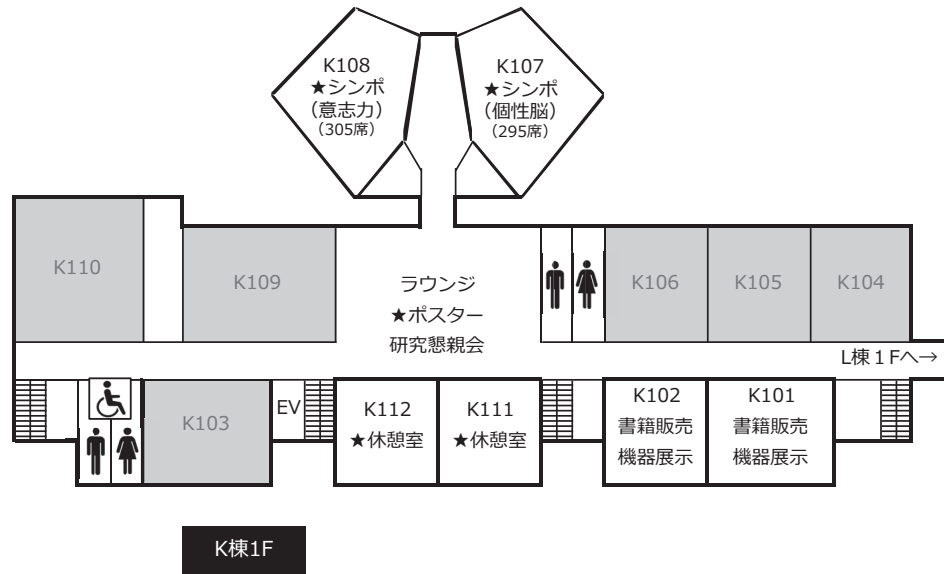
※理事会・各種委員会は、事務棟 (M 棟) で行われます。

受付	K 棟 2F 展示ホール
クローク	K 棟 2F K210
口頭発表・WS	K 棟 3F K314, K313, K312, K305
ポスター発表・研究懇親会	K 棟 1F ラウンジ, 西 2 福利会館
公開シンポジウム (Invited Lecture)	L 棟 1F L102
シンポジウム	K 棟 1F K107, K108
総会	L 棟 1F L102
休憩室	K 棟 1F K111, K112, K302
書籍等展示	K 棟 1F K101, K102

会場案内

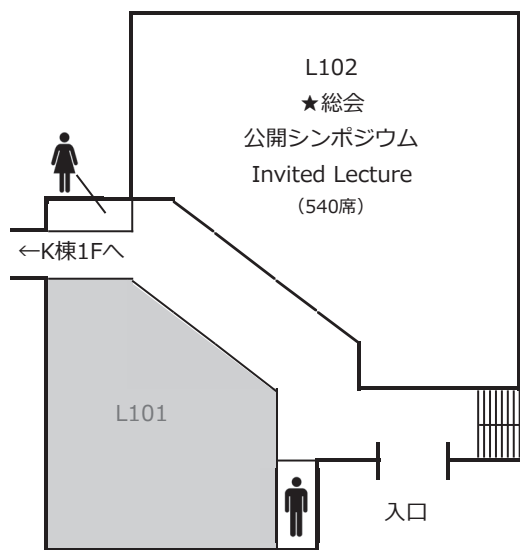
総合科学部 K 棟 (東講義棟)

※入口は 2F です. ご注意ください.

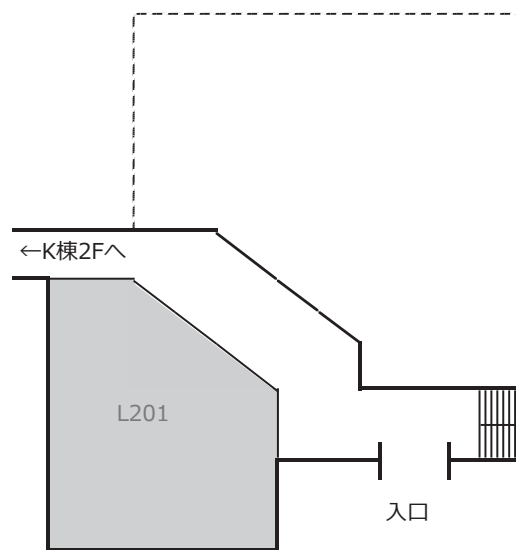


会場案内

総合科学部 L 棟

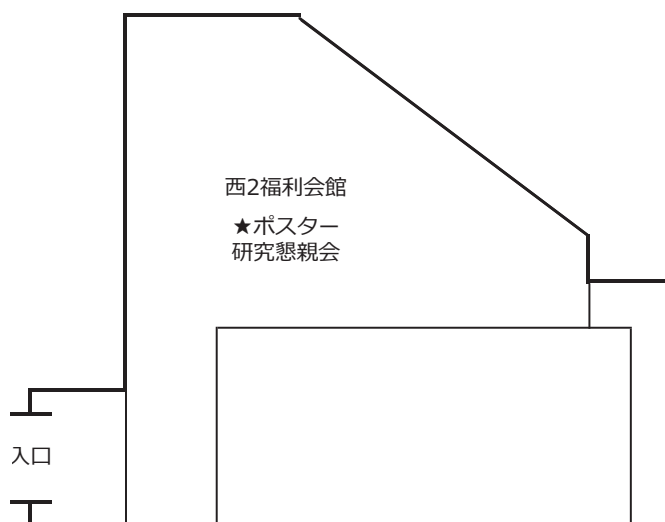


L棟1F



L棟2F

西2 福利会館



西2福利会館

## 大会に関するご案内

### 1. 受付

受付は、両日ともに8時15分から東講義棟(K棟)2階展示ホールにて行います。予約参加の方は、プログラムに同封してある名札を必ずご持参いただき、受付付近で大会用ネームホルダーを受け取っていただければ、受付の必要はありません(名札を紛失された方は受付でその旨お申し出ください)。当日参加の方は、受付で参加申込用紙にご記入いただき、参加費をお支払いください。大会用ネームホルダーを受付付近にご用意いたしますので、ご自身で名札にお名前を記入してください。大会会場内では、名札を必ず着用してください。臨時会員、賛助会員の方は専用受付にお越しください。

### 2. 諸費用

①大会参加費(当日)	正会員(一般)	10,000円
	正会員(院生)	6,000円
	準会員・学部学生(要学生証呈示)	3,000円
	臨時会員	10,000円
	高校生以下(要学生証等呈示)	無料
②論文集購入費(当日)		6,000円

※名誉会員の方は、大会参加費・論文集購入費は無料です。

### 3. 総会・表彰式

1日目の12時20分より、南講義棟(L棟)1階L102教室にて開催いたします。

### 4. 研究発表・ワークショップ

口頭発表とワークショップは、いずれもK棟3階のK314, K313, K312, K305教室で行います。

ポスター発表は、K棟1階ラウンジと西2福利会館食堂の2か所で行います。

### 5. 常任理事会共同開催企画：公開シンポジウム (Invited Lecture)

1日目の14時15分より、L棟1階L102教室にて、大石繁宏氏によるInvited Lecture “The Art and Science of Subjective Well-being”を開催いたします。なお、本企画は常任理事会との共同開催であり、日本社会心理学会の公開シンポジウムを兼ねておりますので、一般の方々に公開されます。本講演は日本語で行われます。

## 6. 大会準備委員会企画シンポジウム

2日目の13時10分より、「多様な<個性>を創発する分子・神経・社会基盤の統合的理解を目指して-複合領域研究の推進-」をK棟1階K107教室で、「意志動力学の創成と推進-意志力を科学する-」をK108教室で行います。

## 7. 研究懇親会

1日目の17時より、K棟1階ラウンジ及び西2福利食堂にてポスターセッションが行われますが、同じ会場で同時に研究懇親会も開催します。会場に軽食とドリンク類(アルコール飲料を含む)を用意いたします。ポスター発表者との議論を始めとした研究交流をお楽しみください。

## 8. クローク

クロークは、K棟2階K210教室に設置します。お預かり時間は、1日目は8時15分から18時45分まで、2日目は8時15分から16時までです。必ず当日中にお引き取りください。なお、2日目は片付けの都合上、16時にはクロークを閉めさせていただきますので、お荷物はワークショップ開始前にお引き取りくださいますよう、お願いいたします。貴重品やパソコンはお預かりできません。

## 9. 休憩室・書籍販売・機器展示

大会期間中は、東講義棟1階K111, K112, 及び3階K302教室に休憩室を、K101, K102教室に書籍販売・機器展示コーナーを設けます。休憩室では飲み物と小菓子をご提供します。休憩室の開室は1日目が9時から17時まで、2日目が8時45分から16時までです。

## 10. 昼食・売店等

会場付近には飲食店やコンビニエンスストアはありません。1日目は、総会会場にて弁当と飲み物をご提供します。2日目は、K棟2F展示ホールの受付付近にて軽食をご提供します。

## 11. 喫煙場所

広島大学構内は、屋外・屋内数カ所に設置された喫煙スペース以外は全面禁煙となっています。指定場所以外での喫煙はご遠慮ください。

## 12. 託児サービス

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児所を設置します。時間は、1日目は8時30分～18時45分、2日目は8時30分～17時15分を予定しております。場所は申込者に別途お知らせいたします。申込方法等は大会Webサイトをご参照ください。

### 13. 掲示板およびコミュニケーション・ボード

掲示板とコミュニケーション・ボードを, K 棟 2F 展示ホール受付付近に設置します。大会本部からの連絡事項を掲示します。また, コミュニケーション・ボードには, 研究に関する事柄であれば自由に掲示できます。

大会本部からの連絡事項は, Twitter @jssp2017 でも随時お知らせします。

### 14. 無線 LAN 接続について

無線 LAN 接続には eduroam JP がご利用いただけます。ご所属研究機関のサービス加入とご自身による設定が必要です。共用場所では携帯電話会社の Wi-Fi サービスが利用できます。

### 15. ソーシャルメディア利用についてのお願い

ソーシャルメディア (Twitter や Facebook など) において, 第三者が, 研究発表の内容を録音・録画・撮影したり, 中継・実況・報告等をオンラインで公開する場合は, たとえ用途が個人用であったとしても, 事前に発表者の許可を得てください。また, 発表者も, 特にそれを抑制したい場合には, ご自身の態度の明示にご協力ください。参加者相互が気分を害することがないよう, 充分にご配慮ください。

### 16. スタッフ・大会本部・緊急連絡先

スタッフは緑の T シャツを着用しております。ご用の際はお気軽にお声がけください。大会本部は, K 棟 2 階 K209 教室に設けます。会場外からの緊急のご連絡は, [jssp2017@hiroshima-u.ac.jp](mailto:jssp2017@hiroshima-u.ac.jp) までお願いいたします。

大会準備委員会からの情報発信は Twitter @jssp2017 で行っています。

### 17. 常任理事会・理事会・編集委員会

大会前日の 10 月 27 日 (金) に総合科学研究科事務棟 3 階の第一会議室で開催されます。詳しくは各連絡用メールリングリストでご案内します。

学会賞選考委員会	12:00-13:00	総合科学研究科事務棟 (M 棟) 3 階第一会議室
編集委員会	13:00-14:00	〃
常任理事会	14:00-16:00	〃
理事会	16:00-18:00	〃

※理事用の控室として総合科学研究科事務棟 (M 棟) 2 階第三会議室を確保しております。会議開始までの待機用にご利用ください。



## 発表者へのご案内

### 1. 口頭発表

#### 受付と発表準備

発表者は可能な限りセッション開始 10 分前までにご来場ください。座長は全発表者の来場を確認してください。プレゼンテーションに備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしてください(セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します)。ご自身の機器をご利用の場合は、必ずセッション開始前に接続確認をしてください。

#### 発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)当日の発表と討論への参加の両件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

#### 機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC(OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2016)を用意します。データは USB メモリでご持参ください。Mac や iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタはご用意できません)。レーザーポインタもご準備します。

#### 時間

1 件あたりの持ち時間は 15 分で、発表時間 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守へのご協力をお願いいたします。発表中は、以下の通り合図をいたします。

1 鈴 10 分経過、2 鈴 12 分経過(発表終了)、3 鈴 15 分経過(質疑応答終了)

#### 配布資料

各自で必要と思われる部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。会場付近にコピー機はありません。セッション開始前に配布資料を会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、セッション開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

#### 会場レイアウト

会場により、規模や座席配置等が異なります。会場案内平面図に収容定員など参考情報を記載しておりますのでご確認ください。

## 2. ポスター発表

### 受付

本大会ではポスター発表受付は行いません。発表者は、セッション開始時刻までに随時ポスターを掲示してください。ポスター掲示は、1日目は12時から、2日目は8時30分から可能です。セッション開始後、大会スタッフが会場を巡回して発表者の在席確認をさせていただきますので、ご協力ください。

### 発表成立の要件

(a)発表論文集への論文掲載、(b)発表が割り当てられたセッションでの90分間のポスター掲示、(c)指定された45分間の在席、および(d)質問者との個別討論への参加の4件を満たすことで、公式発表として認められます。当日の発表と討論は、責任発表者(プログラム中の○印)が行ってください。

### 掲示

ポスターは「A0 サイズ縦長」以内としてください。パネル上部に発表番号を掲示してありますので、所定の位置をご利用ください。画鋏はポスター会場にご用意します。ポスターの最上段には「題目」、「氏名」、「所属」を明記してください。ポスター掲示は、1日目は12時から、2日目は8時30分から可能です。セッション終了後は、1日目については速やかに撤収してください。2日目については16時までに撤収してください。撤収されなかったポスターは会期終了後に大会準備委員会が廃棄します。

### 在席責任時間

1つのセッションは90分です。本大会では在席責任時間の設定が従来と異なりますのでご注意ください。在席責任時間は、発表番号(Pで始まる3桁の数字)が奇数の方はセッション開始10分後から45分間、偶数の方はセッション開始35分後から45分間です。具体的には次の通りです。

1日目：奇数番号は17時10分～17時55分、偶数番号は17時35分～18時20分

2日目：奇数番号は11時50分～12時35分、偶数番号は12時15分～13時00分

## 3. 連名発表者による代行と発表取消

責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、準備委員会の事前の承認を得た上で、連名発表者が発表を代行することができます。承認を得ていない場合、公式発表として認められないことがあります。また、口頭発表において発表の取消があった場合、その後の発表スケジュールの繰り上げは行いません。座長の指示に従い、討論や休憩などの時間にあててください。代行や取り消しについては、早めに準備委員会までご連絡ください。

## 4. ワークショップ

### 時間

1 企画全体で 75 分とします。企画者や司会者のもとで自由に進行していただきます。終了時間は厳守してください。

### 機器

各会場にはプロジェクタとスクリーンが設置されています。ノート PC (OS: Windows7/10, Microsoft Office PowerPoint2016) を用意しますので、データは USB メモリでご持参ください。Mac iPad 等の場合はお手持ちのものをお使いください(プロジェクタとの接続アダプタは用意できません)。レーザーポインタもご準備します。備え付け PC をご利用の場合はデータをデスクトップ上にコピーしていただいてもかまいません。セッション終了後すぐに準備委員会の責任において削除します。

### 配布資料

各自で必要部数をご準備の上、発表会場にご持参ください。ワークショップ開始前に会場係にお渡しいただければ配布をお手伝いし、ワークショップ開始後は会場出入口付近に置かせていただきます。

### 会場レイアウト

会場により異なります。会場案内平面図に収容定員や特徴を記載しております。

### 打ち合わせスペース

ワークショップの打ち合わせにご利用いただける部屋については、企画者に個別にご連絡いたします。複数のワークショップの共用となる場合もありますのでご了承ください。

## 5. ご連絡・お問い合わせ

大会準備委員会へのご連絡は、E-mail(jssp2017@hiroshima-u.ac.jp) をお願いいたします。大会開催中は大会本部(K 棟 K209)にお越しいただいても結構です。交通機関の遅延や事故等による不測の事態により、ご自身の研究発表セッションの開始予定時間に間に合わない可能性が生じた場合は、なるべく早くご連絡ください。

## 託児のご案内

大会期間中、月齢2ヶ月以上12歳(小学校6年生)までのお子様を対象とした託児室を設置します。託児室の利用を検討されている方は、以下をご覧になり、必要な情報を大会準備委員会まで電子メールでお知らせください。当日の要領など詳細については個別にご連絡させていただきます。ご質問なども遠慮なくお知らせください。

準備の都合上、お申し込みは10月6日(金)までをお願いいたします。この日までにご予定がはっきりしない場合はお早めにご相談ください。

### 1. 託児料

1日につき1,000円

### 2. 託児時間

両日ともに、プログラム開始30分前から終了15分後まで

1日目:8時30分～18時45分      2日目:8時30分～17時15分

### 3. 託児場所

広島大学東広島キャンパス内(お申し込みをいただいた方に別途お知らせします)

### 4. 託児委託先

株式会社アイگران

### 5. ご連絡いただきたい内容とご連絡先

内容:託児を希望されるお子様の(1)大会時の年齢(3歳未満の場合は月齢まで)と(2)性別

連絡先:大会準備委員会 [jssp2017@hiroshima-u.ac.jp](mailto:jssp2017@hiroshima-u.ac.jp)

### 6. 申込〆切

10月6日(金)

この日までにご予定がはっきりしない場合は、その旨を早めにご相談ください。

### 備考

本サービス実施には日本社会心理学会の大会時託児室設置費補助金(20万円)を活用しています。

託児料は、大会における託児室設置(暫定)ガイドライン(2004年7月18日総会決定)に基づくものです。

## 第1日目 10月28日(土)

受付開始：8時15分（K棟2F 展示ホール）

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	18:30
L102						12:20 総会	14:05 公開シンポジウム (Invited Lecture) Dr. Oishi	14:15	15:30		
K314	9:00 口頭01 集団1	10:30	10:40 口頭05 集団2	12:10				15:40 WS1 Self-esteem	16:55		
K313	9:00 口頭02 政治行動・マスコミュニ ケーション	10:30	10:40 口頭06 社会・環境問題	12:10				15:40 WS2 文化と注意研究	16:55		
K312	9:00 口頭03 リスク認知	10:30	10:40 口頭07 安全・防災	11:55				15:40 WS3 新・社会心理学	16:55		
K305	9:00 口頭04 社会的認知1	10:30	10:40 口頭08 社会的認知2	12:10				15:40 WS4 自動運転責任	16:55		
K棟1F ラウンジ									17:00	18:30	ポスター1 研究懇親会
西2 福利会館									17:00	18:30	ポスター2 研究懇親会
K111 K112 K302	休憩室										
K101 K102	書籍販売・機器展示										

## 第2日目 10月29日(日)

受付開始：8時15分（K棟2F 展示ホール）

会場	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
K108					13:10	14:25				
K107					13:10	14:25				
K314	9:00	10:15	10:25	11:40			14:35	15:35	15:45	17:00
K313	9:00	10:15	10:25	11:40			14:35	15:35	15:45	17:00
K312	9:00	10:15	10:25	11:40			14:35	15:35	15:45	17:00
K305	9:00	10:15	10:25	11:40			14:35	15:35	15:45	17:00
K棟1F ラウンジ				11:40	13:10					
西2 福利会館				11:40	13:10					
K111 K112 K302	休憩室									
K101 K102	書籍販売・機器展示									

## Dr. Shigehiro Oishi

University of Virginia

Dr. Oishi is a professor of psychology at the University of Virginia. He received his PhD in Personality and Social Psychology from the University of Illinois at Urbana-Champaign in 2000, and B. A. in Psychology from International Christian University. He is a world-leading authority in culture and well-being studies. He has written more than 150 articles and chapters, and that leads him to be one of the most cited social-personality psychologists. Most recently, he is selected as the 2017 Society of Experimental Social Psychology Career Trajectory Award recipient, for his uniquely creative and influential scholarly productivity.



Title of the lecture:

### **The Art and Science of Subjective Well-being**

The empirical science of subjective well-being, popularly referred to as happiness, has grown enormously in the last decade. In this lecture I will summarize key empirical findings on subjective well-being such as income, social relationships, genetics, and culture. I will also discuss policy implications of the empirical findings, asking questions such as “what is a happy society?” Finally, I will explore fundamental philosophical questions that emerged out of novels, movies, and obituaries such as “What is happiness?” “What is a happy life?” “How is it different from a meaningful life?” and finally “Is a happy and meaningful life everything?”

### **Moderator :**

Asuka Komiya (Hiroshima University)

\*本講演は、日本語で行われます。常任理事会との共同開催により、2017年度日本社会心理学会公開シンポジウムとしても開催されます。

**意志動力学の創成と推進-意志力を科学する-**

共催：新学術研究領域 意志動力学の創成と推進

企画者： 第58回日本社会心理学会大会準備委員会

話題提供者： 櫻井 武 (筑波大学・非会員)

大石直也 (京都大学・非会員)

指定討論者： 唐沢かおり (東京大学)

**概要**

意志(ウィル=will)は合目的な行動をドライブするものであり、その強さは意志力(ウィルパワー)という概念であらわせる。ウィルは報酬系に牽引され、大脳辺縁系に由来する不安や恐怖によって妨げられるだけではなく、目先の障害を乗り越え長期の目標を達成するための力でもある。本領域ではこうした意志力のメカニズムと影響をあたえる要因を多角的に科学する。今回、日本社会心理学会のシンポジウムには2名の計画研究代表者が発表し、本学会の参加者と意志動力学について議論したい。

**櫻井 武 氏 <覚醒と行動の神経科学>**

意志力(ウィルパワー)は報酬系・覚醒系や前頭前野、大脳辺縁系、基底核などさまざまな脳部位が関与して成立すると考えられる。本シンポジウムでは覚醒系のコンポーネントであるオレキシンがどのようなメカニズムで覚醒や行動を制御し、大脳辺縁系の機能に関わるか、私たちのデータを示しながら概説する。

**大石直也 氏 <モチベーションの脳機能イメージング>**

MRIに代表される脳機能イメージング技術は、近年その発展が著しく、ヒト脳内の領域間の結合状態を網羅的に解析できるようになり、複雑な機序が示唆されるヒトの意志力の神経基盤解明にも寄与できると考えられる。このような最新の脳機能イメージング技術について、具体的な研究データを示しながら概説する。



## 多様な〈個性〉を創発する分子・神経・社会基盤の統合的理解を目指して-複合領域研究の推進-

共催：新学術研究領域 多様な「個性」を創発する脳システムの統合的理解

企画者： 日本社会心理学会第58回大会準備委員会

話題提供者： 保前文高 (首都大学東京・非会員)

郷 康広 (自然科学研究機構新分野創成センター・非会員)

大隅典子 (東北大学・非会員)

指定討論者： 亀田達也 (東京大学)

### 概要

平成28年度に発足した新学術領域「多様な〈個性〉を創発する脳システムの統合的理解」では、脳神経系発生発達の多様性や介入によるゆらぎを解明し、集団における「個性」成立の法則やその意義を明らかにし、「個性創発学」とも呼べるような新たな学術領域を切り拓きたいと考えている。今回、日本社会心理学会のシンポジウムには3名の計画研究代表者が人文社会系、生物系、理工系の立場から領域の概要について発表し、本学会の参加者と「個性」の創発されるメカニズムについて議論したい。

「個性」への興味は人間にとって根源的なものである。さまざまな「個性」は、ゲノムの個体差が元になっているが、育ち方や生活習慣等の環境的要因によっても、その現れ方は変化する。これは、環境によって遺伝子の働き方が異なる「エピゲノム」機構が存在するからである。目や髪の色のようにわかりやすい身体的特徴だけでなく、認知的能力やパーソナリティなど、脳神経系の機能に依存した心的機能においても「個性」は認められる。このような心的機能の神経基盤や遺伝的・環境的背景については、未だ十分には明らかにされていない。しかしながら近年、情報科学技術の向上により「ビッグデータ」を扱える時代となり、ヒトの脳画像等のデータや動物の各種行動観察データ、神経活動データ等の膨大なデータを集めて、多変量統計解析やデータ駆動型研究を行うことが可能となった。そこで我々は、今こそが「個性」の研究に取り組む好機と捉え、新学術領域・複合系において本領域を立ち上げることとなった次第である。

本新学術領域研究では、人文社会系、生物系、理工系の研究者が密接に連携することにより、脳神経系発生発達の多様性を解明し、「個性」創発の理解に繋げたいと考えている。言うまでもなく、

「個性」の理解には人間を対象とした研究が必須であるが、それだけでは「個性」がどのように創発するのか、そのメカニズムに迫ることは難しい。ヒトと動物に共通したモデルを立てることにより、ヒトだけを対象にした従来の研究では扱うことが難しかった集団内の不適応や次世代への継承、ヒトに至る進化などの問題に関して、種々の介入等が可能な動物を対象とした研究により取り組むことを可能にすると我々は考える。

これまで、動物を対象とする研究者は心理学等の研究者との接点が少なく、パーソナリティ研究等を十分に理解した上で適したモデルを立てたり解析手法を精緻化させてきたとは言い難い。逆に、生命現象の分子メカニズムの理解が心理学に貢献できると考えていない研究者もいるように感じられる。本新学術領域には、きわめて多様なバックグラウンドを持つ本領域の研究者が参画することを通じて、「個性」についての複合的な研究を推進していきたいと考える。例えば、子どもが言葉を獲得する過程における個人差がどのようにして生じるのかについて、齧歯類や鳴禽の音声コミュニケーションの研究が役に立つかもしれないし、齧歯類や非ヒト霊長類のゲノム情報や、脳におけるその働き方を調べるというアプローチもあるだろう。

本新学術領域はまた、研究期間内に得られたデータに関して、データシェアリングの仕組みを構築する。これにより、将来的に他の研究者にもデータ共有を可能にし、ヴァーチャルな「知の集合体」を形成することによって、国際社会にも大きな貢献を果たすことが期待される。なお、「個性」に関する科学的知見は社会において慎重に取り扱われる必要があるため、「個性」に関わる科学情報の発信・利用に伴う倫理的問題を検討し、市民公開講座等の開催により、社会的合意形成のための機会を提供する。

## Self-esteem とは何かを考える

企画者： 敷島千鶴（帝京大学）・大江朋子（帝京大学）

話題提供者： 敷島千鶴（帝京大学）

山口 勸（東京大学）

大江朋子（帝京大学）

新谷 優（法政大学）

### 概要

Self-esteem は心理学とその関連領域において広範かつ頻繁に用いられてきた概念である。しかし、self-esteem とは一体何か、その正体についての検討は十分に行われていないまま、分析に導入されることが多いように思われる。本ワークショップでは、self-esteem を個人レベルで規定する生物学的基盤、self-esteem を集団レベルで規定する文化的基盤、self-esteem を左右する状況要因、そして self-esteem を高く持つことの意味について、4 名の話題提供者が各自の実証研究を紹介し、self-esteem とは何かを多角的に検討する。

具体的には、敷島が、Rosenberg Scale の縦断データ及び、Big Five パーソナリティデータを双生児から収集し、行動遺伝学分析を行うことにより、個人の self-esteem の安定と変化に寄与する遺伝の影響を、パーソナリティとの関連から明らかにする。

山口氏は、Rosenberg Scale で測定される顕在的 self-esteem データと、Implicit Association Test で測定される潜在的 self-esteem データから、顕在的 self-esteem の変化に寄与する文化の影響と、文化普遍性の高い潜在的 self-esteem の存在を論じる。

大江は、潜在的 self-esteem、指の長さの比 (2D:4D)、及び、環境温度のデータから、潜在的 self-esteem が胎児期のホルモンの影響を受ける可能性があること、また、状況に応じて変動することを示し、個人の self-esteem の安定性と可変性を議論する。

新谷氏は、他者から良い評価を得ようすることで self-esteem は高まるが、他者から良い評価を得ようとした際には様々な弊害が生じることを示すデータを紹介し、無理なく self-esteem を高めていくにはどうあるべきかを議論する。

研究デザインを超えた self-esteem 概念の理解を促す議論の展開を目指す。

## 文化と注意研究の最前線：注意の文化普遍性と文化依存性

企画者： 増田貴彦（アルバータ大学）・小宮あすか（広島大学）

司会者： 小宮あすか（広島大学）

話題提供者： 増田貴彦（アルバータ大学）  
上田祥行（京都大学・非会員）  
富永仁志（京都大学）

指定討論者： 有賀敦紀（広島大学・非会員）

### 概要

「いかに深く文化はヒトの心に影響するか」という問いを背景に、これまで多くの文化比較研究が進められ、注意の制御スタイルが文化によって異なることが示されてきた。知見が蓄積されていく中で、近年、文化は全ての注意機能に一様に影響するのではなく、その影響の範囲や大きさにムラのある可能性が指摘されている。本ワークショップでは、文化心理学および認知心理学の視点から、注意の文化普遍性と文化依存性に関する最新の研究動向について話題提供を行う。さらに、文化がどのように注意の制御スタイルに影響するのか、個人内のプロセスを明らかにする試みについて報告する。文化と注意研究でこれまでわかってきたこととこれからの検討課題を共有するとともに、心と文化の関係を検討する研究の今後の方向性について議論したい。

## ヒト, ラット, マウス, カイコによる新・社会心理学

企画者： 中嶋智史 (広島修道大学)・須藤竜之介 (九州大学)

司会者： 中嶋智史 (広島修道大学)

話題提供者： 中嶋智史 (広島修道大学)

村田藍子 (早稲田大学・日本學術振興会)

請園正敏 (国立精神・神経医療研究センター・非会員)

須藤竜之介 (九州大学)

指定討論者： 高野裕治 (同志社大学・非会員)

### 概要

従来、社会心理学においては、ヒトを対象とした研究を通じて、社会場面にかんする数多くの理論が生み出されてきた。一方で、近年、生物学、神経科学、行動薬理学などの様々な学問領域において、他の生物種を用いることにより、ヒトの社会性の生物学的基盤について探る試みが始まっている。社会心理学でも、そうした他分野における試みを積極的に取り入れていくことにより、既存の理論の強化や、新たな理論的枠組みの形成が期待できる。また、ラット、マウスなどのげっ歯類はヒトのモデル動物として神経科学、薬理学の分野で多く用いられ、ヒトの生物学的なメカニズムを解明する上で欠かすことができない対象となっていることから、げっ歯類を用いた社会性についての研究の知見を社会心理学に取り入れていくことは、今後、ヒトの社会性の生物学的基盤の解明をしていく上で重要な役割を果たすと考えられる。

本ワークショップでは、まず、ヒトの社会性とラットの社会性の繋がりに関連する話題として、中嶋がヒトおよびラットの表情認知の研究、村田先生が、ヒトおよびラットの共感性の研究について紹介する。次に、請園先生が、マウスを用いた社会的促進の神経メカニズムの研究を紹介する。最後に、須藤先生が家畜化によって生物種としての多くの機能を失ったとされるカイコにおける社会性の研究について紹介する。

いずれの話題提供者も、心理学者としてヒトを対象とした社会心理学的研究を行うと同時に、ラット、マウス、カイコなどの他の生物種を対象として認知科学的、神経科学的手法を用いた研究も行っていることから、他の領域、もしくは他の生物種を対象とした研究の知見とヒトを対象とした社会心理学の知見を融合する上で適した人材であると考えられる。これらの新進気鋭の若手研究者の方々を中心に、他の生物種を対象とした研究が今後の社会心理学の発展にどのように貢献できるか議論したい。

## 自動運転における責任の問題をめぐって

企画者： 唐沢かおり（東京大学）・戸田山和久（名古屋大学）

司会者： 唐沢かおり（東京大学）

話題提供者： 谷辺哲史（東京大学）  
二宮芳樹（名古屋大学・非会員）  
小林正啓（花水木法律事務所・非会員）

指定討論者： 戸田山和久（名古屋大学）

### 概要

責任判断、道徳的判断は、社会心理学者が大きな関心を持つ領域だが、一方で技術の進歩がもたらす諸問題について、迅速に対応して研究を進めることが必ずしも出来ていない。自動運転を含む「心がない存在が意思決定をする」ことから生じる諸問題は、近未来的に、我々が直面することであり、そのことを見据えて、社会心理学も、工学、哲学、法学と連携して研究を展開していく必要がある。ワークショップでは、自動運転車、ロボット、人工知能などに対する人々の責任判断に関する社会心理学的研究、自動運転車開発の現状と、社会実装に向けての課題、自動運転にかかわる法整備の現状と課題に関する話題提供に基づき、これらの問題を学際的に検討する必要とその具体化に向けての方法、さらには今後の取り組みの方向性について議論したい。

## 集団パフォーマンスの科学の構築へ向けて： 小集団のダイナミックスの展開

企画者： 原田知佳（名城大学）

司会者： 原田知佳（名城大学）

話題提供者： 土屋耕治（南山大学）  
藤原健（大阪経済大学）  
秋保亮太（九州大学・日本学術振興会）

指定討論者： 亀田達也（東京大学）

### 概要

集団に心を仮定することは誤りだとするオールポートの主張（Allport, 1924）は、その後の集団研究に方法論の上でも、概念構築の面でも多大な影響を与えてきた。集団心の捉え方、扱い方には多様な議論がある一方、個人の和を超えたダイナミックスを捉えることの必要性、集団の全体的な心理学的特性を可視化するアプローチの重要性が指摘されている（唐沢・戸田山, 2012）。そうした中、Woolleyらの研究グループは、個人の一般知能（g因子）と同様に、集団にも集団の知能を意味する集団的知能（collective intelligence）が存在することを報告し、こうした知見が個人特性、集団のダイナミックス、パフォーマンスを包括する、集団パフォーマンスの科学を構築するための幅を広げると主張する（Woolley, Chabris, Pentland, Hashmi, & Malone, 2010）。

本企画では、方法論的・概念的困難さを抱える集団の特性について、異なる観点から捉えた研究の報告をもとに、集団パフォーマンスの科学の構築へ向けて、特に小集団のダイナミックスの観点から今後どういった課題に注力すべきかを議論したい。土屋は、Woolley et al. (2010)の研究を参考にして実施したメンバーの特性（社会的感受性）と集団パフォーマンスとの関連が、課題の質によって異なること、また、集団的知能の発現プロセスに関する実験結果を報告する。藤原は、ノンバーバルな相互影響過程とパフォーマンスの関連について、シンクロニーに焦点を当てつつ議論する。秋保は、暗黙の協調の実現過程に関する実験結果を報告し、チーム学習と共有メンタルモデルが活動の効率化にどのように機能するかについて議論する。

指定討論の亀田先生には、実験社会科学の文脈からコメントを頂き、今後の研究の射程を描きたい。さらに、フロアとの質疑応答を通して、集団パフォーマンスの科学の構築へ向けた今後の展開に関する論点を精査し、集団研究の今後の展望を持つことを目指す。

## 防災意識とは何か：社会心理学と地域防災の視点から

企画者： 尾関美喜（東京国際大学）

司会者： 尾関美喜（東京国際大学）

話題提供者： 尾関美喜（東京国際大学）  
島崎敢（防災科学技術研究所・非会員）  
元吉忠寛（関西大学）  
尾崎由佳（東洋大学）  
磯打千雅子（香川大学・非会員）

### 概要

地震、火山の噴火、豪雨といったさまざまな形の大災害が頻発する近年、人々の防災意識を高めることの重要性が政策的にも重視され、数多くの研究がなされてきた。しかし、これらが抱える問題として、「防災意識とは何か」が明確に定義されていないままに話が進んでおり、個々の研究で用いられる尺度についても内容が大きくことなっていることがあげられる。つまり、防災意識が何なのか不明確であるがゆえに、具体的な施策が定まらないばかりか、誰が、何をできるようにしなければよいのか、根本的な問題が解決されていないのが現状である。

こうした問題に対し、尾関からは、「防災意識が高い人の特徴」を通じて防災意識を構成する内容を明らかにするために、先に防災意識の定義を提示したうえで防災の専門家に対して実施したインタビュー調査の結果を報告する。地域の災害レジリエンスの可視化に取り組んでいる島崎と、社会心理学を専門とする元吉からは、それぞれが異なる視点から独自に作成した、防災意識尺度の内容とその妥当性について報告する。

さて、防災は、「いつ来るかはわからないものに対して備える」という側面を持っている。そこで尾崎氏からは、自己制御と時間的展望に関する社会心理学的研究を行ってきた立場から、防災意識というものに対してコメントをいただく予定である。そして、磯打氏からは、工学的アプローチで行政や地域組織の防災事業計画策定に携わり、バーチャルリアリティを用いた防災教育を行ってきた立場から、心理学者の考える防災意識に対してコメントをいただく予定である。



## 都市在住高齢者の社会的ネットワーク形成を目指した地域介入研究： マルチメソッドによる効果の検証

企画者： 片桐恵子（神戸大学）  
話題提供者： 増本康平（神戸大学・非会員）  
原田和弘（神戸大学・非会員）  
福沢 愛（神戸大学）  
指定討論者： 三浦麻子（関西学院大学）  
石黒 格（日本女子大学）

### 概要

高齢者の孤立死や認知症徘徊による行方不明高齢者の増加、高齢独居・高齢夫婦のみ世帯への災害時や緊急時の対応、といった高齢社会のかかえる問題を解決し、高齢者が安心して安全に生活する環境を整えるうえで、住民同士の支え合い・助け合いの基盤となる社会的ネットワークが必要不可欠である。神戸大学大学院人間発達環境学研究科では、2012年から地域住民とともにタウン・ミーティングの開催による地域問題の共有化を経て、地域住民の交流促進を企図した「アカデミック・サロン」を開催している。

このようなアクションリサーチに効果の測定は欠かせないが、アクションリサーチ研究の歴史は浅く、効果の評定方法はいまだ模索段階にある。そこで本ワークショップでは、マルチメソッドによる評価とその効果を紹介し、アクションリサーチの効果を多面的に示すことを目的としている。

【企画者 片桐恵子】 本学研究科で実施しているアクションリサーチ「アカデミック・サロン」の内容などの紹介し、住民の「アカデミック・サロン」への参加の効果を、縦断調査のデータにより示す。

【話題提供者 福沢愛】 Well-being 規定因の一つとして、経済的豊かさや身体的健康といった人的資本が挙げられるが、高齢者の人的資本は、定年退職や身体状況の低下などにより減少する傾向がある。演者らは、社会関係資本の持つ緩衝効果に着目し、社会関係資本が、人的資本の減少による Well-being への脅威を和らげる効果があるかを縦断調査によって検討した。その結果、経済的豊かさの減少や IADL の減少は、Well-being に負の影響があった。しかし、弱い紐帯が多い人は、IADL の減少は生活満足度を低下させず、信頼感が高い人では、経済的豊かさの減少が生きがい感を低下させなかった。つまり、人的資本の減少が Well-being に与える脅威を、社会関係資本が緩和したことが示された。また、IADL が減少した高齢者の間では、弱い紐帯が、Well-being を保つ効果があることが示唆された。

【話題提供者 増本康平】 地域住民の社会的ネットワークを促す取り組みに共通する問題として、客観的な効果検証の困難さを挙げるができる。また、社会的ネットワークの基盤となる高齢者のコミュニケーション行動に影響する要因についても十分に検討されてきたとはいえない。そこで演者は、ウェアラブルセンサを用いて対面交流を定量的・自動的に収集することで、健康教室参加者のネットワークの形成や変化を客観的に評価することを目的とした実験と、高齢者のコミュニケーション行動に影響する要因を探索的に検討するために実施した集団実験について話題提供をおこなう。

【話題提供者 原田和弘】 積極的な社会的交流は、アクティブエイジングの実現に重要と考えられている。しかし、社会的交流の影響には、性差や負の側面もあるだろう。演者らは、高齢者における社会的交流が感情変化に及ぼす影響とその性差について、集団でのウォーキング場面を対象とした検証を行った。その結果、男女とも、ウォーキング中に会話を楽しめた者ほど、高揚感が高まっていた。一方、多くの人と会話することは、女性では良い感情変化（否定的感情の減少）と、男性では悪い感情変化（落ち着き感の減少）と関連していることが明らかとなった。

## 視線追跡 (eye tracking) 技法利用の可能性： 消費者行動研究を通して考える

企画者： 秋山 学 (神戸学院大学)・池内裕美 (関西大学)

司会者： 秋山 学 (神戸学院大学)

話題提供者： 秋山 学 (神戸学院大学)

池内裕美 (関西大学)

竹村和久 (早稲田大学)

### 概要

消費者行動研究においては1970年代から視線追跡(eye tracking)を用いて、消費者の意思決定過程を探る研究が行われている(e.g., Russo, 1977)。意思決定過程、特にその認知過程の探求においては、視線追跡以外にもプロトコル法や情報モニタリング法といった手法が用いられてきた(竹村, 2009; Glaholt, & Reingold, 2011)。しかし、こうした手法は、研究方法それ自体が意思決定過程をより熟慮的へ変容させるなど、研究対象とする認知過程それ自体を変容させる可能性も指摘されている。これに対して視線追跡では、測定行為それ自体で当該事象の認知過程を変容することが少ない、あるいは、より日常的な刺激そのものを意思決定(選択)課題として利用できるといった利点がある。従来は高価な機器が必要とされるとともに、その解析にも相当程度の時間を要していたものが、簡便にデータを整理するソフトウェアが入手できるようになるなど、その導入が容易にもなっている。こうした背景に加えて、Gaze cascade 効果(Shimojo et al., 2003)は、顕在化された選好と視線との関係を問い直す好機となり、視線追跡を用いた多くの研究が発表されている。

本ワークショップでは、視線追従だけでなく、プロトコル法や情報モニタリング法も用いた研究で消費者行動研究を牽引して来た竹村先生から視線追従を用いた研究を紹介していただきながら、本手法の特徴や課題、可能性に関して話題提供をお願いする。さらに、消費者の価値判断・意思決定過程を探るための手法として視線追従を用いた研究に着手しはじめた池内・秋山両名のそれぞれの研究紹介、特に、視線追従を利用するメリットや研究遂行上の課題に関する話題提供を行う。池内からは、誘目性の高い広告やパッケージの制作、あるいは売れない商品のパッケージ上の問題点の発見といった、主に産学連携活動で取り組んでいる実務的な課題を解決するために実施した基礎的な研究例を紹介する。秋山からは、近年の視線追跡技法で用いられる測定機器やソフトウェアなどの紹介とともに、行動経済学の代表的な知見の一つとして、また、消費者の商取引時の契約における課題として注目されているデフォルト効果を生み出す意思決定過程を視線追跡を用いて整理する試みを紹介する。視線追跡技法利用の経験豊富なエキスパートの知見と、初心者の研究双方を紹介しながら、消費者心理のみならず、社会心理学における視線追跡技法利用の可能性とその課題を考えてみたい。

# O01 口頭発表

第1日 (10月28日) 9:00 ~ 10:30

K棟 3F K314

## 集団1

座長 竹澤 正哲

- |      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| O011 | 9:00 ~ 9:15<br>死の脅威に直面すると、集団規範継承動機は高まるか？ (1)<br>集団アイデンティティによる検討                                 | ○尾関 美喜  | 東京国際大学  |
| O012 | 9:15 ~ 9:30<br>記述的規範から命令的規範がいかんとして形成されるのか<br>規範形成における世代交代と教育の効果                                 | ○清水 裕士<br>中川 夏希                                     | 関西学院大学<br>関西学院大学                                      |
| O013 | 9:30 ~ 9:45<br>野球ファンの内集団ひいき<br>社会的アイデンティティ理論と閉ざされた一般互酬仮説の妥当性の検討                                 | ○中川 裕美<br>横田 晋大<br>中西 大輔                            | 広島修道大学<br>広島修道大学<br>広島修道大学                            |
| O014 | 9:45 ~ 10:00<br>Generalized trust and generalized social selection processes in social networks | ○Tasuku Igarashi<br>Taro Hirashima                  | Nagoya University<br>Aichi Shukutoku University       |
| O015 | 10:00 ~ 10:15<br>町の開放性を支える結束型ソーシャル・キャピタル  | ○内田 由紀子<br>一言 英文<br>箕浦 有希久<br>竹村 幸祐<br>福島 慎太郎       | 京都大学<br>福岡大学<br>関西学院大学<br>滋賀大学<br>青山学院大学              |
| O016 | 10:15 ~ 10:30<br>協力行動の計算論モデル構築を目指して<br>気まぐれな条件付き協力と強化学習   | ○竹澤 正哲<br>堀田 結孝<br>江崎 貴裕<br>犬飼 佳吾<br>喜多 敏正<br>増田 直紀 | 北海道大学<br>帝京大学<br>科学技術振興機構<br>大阪大学<br>北海道大学<br>ブリストル大学 |

政治行動・マスコミュニケーション

座長 稲増 一憲

- |      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| O021 | 9:00~9:15<br>政治的会話の構造と測定                           | ○横山 智哉   | 立教大学   |
| O022 | 9:15~9:30<br>期日前投票の促進要因<br>福島県民に対する政治意識調査より        | ○岡田 陽介   | 拓殖大学   |
| O023 | 9:30~9:45<br>東アジアではなぜデモ参加者が嫌われるのか?<br>日米中港での比較実験から | ○小林 哲郎<br>三浦 麻子<br>曹 博林<br>Dani Madrid-Morales | 香港城市大学<br>関西学院大学<br>深圳大学<br>City University of Hong Kong |
| O024 | 9:45~10:00<br>指定廃棄物長期管理施設立地問題を巡る多段階決定<br>と手続き的公正   | ○横山 実紀<br>大沼 進                                 | 北海道大学<br>北海道大学   |
| O025 | 10:00~10:15<br>テレビ批判態度と第三者効果傾向の検討                  | ○齋藤 誠子   | 慶應義塾大学   |
| O026 | 10:15~10:30<br>マスメディアというアクターに対する信頼感の研究             | ○稲増 一憲<br>三浦 麻子                                | 関西学院大学<br>関西学院大学   |

# O03 口頭発表

第1日 (10月28日) 9:00 ~ 10:30

K棟3F K312

## リスク認知

座長 元吉 忠寛

- |      |   |  |
|------|---|--|
| O031 | 9:00 ~ 9:15<br>Mediator of power's effects on risk decision making :<br>Reward perception or optimism about risk? | ○Yan-mei Li Chinese Academy of Sciences<br>Xiao-shu Li Chinese Academy of Sciences<br>Zhu-yuan Liang Chinese Academy of Sciences |
| O032 | 9:15 ~ 9:30<br>NIMBY 施設に補償金のフレームが与える影響<br>高レベル放射性廃棄物処分場立地を題材  | ○飯野 麻里 北海道大学<br>大沼 進 北海道大学<br>広瀬 幸雄 関西大学<br>大澤 英昭 日本原子力研究開発機構<br>大友 章司 甲南女子大学  |
| O033 | 9:30 ~ 9:45<br>指定廃棄物の長期管理施設に対する立地受容判断の<br>当事者性の違い   | ○大友 章司 甲南女子大学<br>広瀬 幸雄 関西大学<br>大沼 進 北海道大学  |
| O034 | 9:45 ~ 10:00<br>福島第一原発事故による食品の放射線リスクへの態度<br>7波パネル調査データによる地域差と時間的推移の検<br>討   | ○楠見 孝 京都大学<br>三浦 麻子 関西学院大学<br>小倉 加奈代 岩手県立大学  |
| O035 | 10:00 ~ 10:15<br>人はなぜ買い控えをするのか (2)<br>福島第一原子力発電所事故による買い控え行動に関<br>する調査   | ○中西 大輔 広島修道大学<br>井川 純一 大分大学<br>横田 晋大 広島修道大学  |
| O036 | 10:15 ~ 10:30<br>避難情報の提示におけるリスク認知と自己スキーマの影<br>響<br>— 避難行動要支援者との同居家族を対象として—  | ○元吉 忠寛 関西大学  |

社会的認知 1

座長 外山 みどり

- |      |   |                                   |  |
|------|---|-----------------------------------|--|
| O041 | 9:00 ~ 9:15<br>因果的説明が過去の成功・失敗に対する感情・評価に及ぼす影響              | ○外山 みどり<br>藏本 知子                  | 学習院大学<br>聖徳大学                          |
| O042 | 9:15 ~ 9:30<br>感動する人は良い人か？<br>—「感動した」という行動の記述が印象形成に及ぼす影響— | ○加藤 樹里                            | 金沢工業大学                                 |
| O043 | 9:30 ~ 9:45<br>マウストラッカーによる評価的プライミングのメカニズム分析               | ○川上 直秋<br>Jonathan B. Freeman     | 島根大学<br>ニューヨーク大学                       |
| O044 | 9:45 ~ 10:00<br>集団への所属は福島産食品に対する懸念のバッファーとなるか？             | ○埴田 健司<br>樋口 収<br>小森 めぐみ<br>武田 美亜 | 東京未来大学<br>明治大学<br>四天王寺大学<br>青山学院女子短期大学 |
| O045 | 10:00 ~ 10:15<br>人物の道德情報と魅力度が視覚的気づきに及ぼす影響                 | ○白井 理沙子<br>小川 洋和                  | 関西学院大学<br>関西学院大学                       |
| O046 | 10:15 ~ 10:30<br>閾化単純接触効果に対する顕在自尊心・潜在自尊心の影響               | ○三木 あかね<br>川上 直秋<br>中島 健一郎        | 広島大学<br>島根大学<br>広島大学                   |

## O05 口頭発表

第1日 (10月28日)

10:40 ~ 12:10

K棟 3F K314

### 集団 2

座長 縄田 健悟

- |      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| O051 | 10:40 ~ 10:55<br>ローカルな相互作用による限界質量モデルの妥当性検討<br>セル・オートマトン法によるシミュレーションの出力と質問紙による実測値の関連 | ○出口 拓彦                                   | 奈良教育大学                                 |
| O052 | 10:55 ~ 11:10<br>集団状況におけるリスク選択の変容   | ○阿形 亜子<br>笠置 遊<br>安藤 香織                  | 奈良女子大学<br>立正大学<br>奈良女子大学               |
| O053 | 11:10 ~ 11:25<br>自己を過大評価するバイアスはときに集団の決定を向上させる                                       | ○中分 遥                                    | University of Oxford                   |
| O054 | 11:25 ~ 11:40<br>日本人を対象とした服従実験<br>Milgram (1974) や Burger (2009) の実験との比較            | ○釘原 直樹<br>寺口 司<br>阿形 亜子<br>内田 遼介<br>井村 修 | 大阪大学<br>大阪大学<br>奈良女子大学<br>大阪大学<br>大阪大学 |
| O055 | 11:40 ~ 11:55<br>集団内葛藤が集団創発性へ与える影響<br>共有リーダーシップによる媒介効果の検討                           | ○井奥 智大<br>釘原 直樹                          | 大阪大学<br>大阪大学                           |
| O056 | 11:55 ~ 12:10<br>チームの“阿吽の呼吸”を支える対人交流記憶システム<br>企業チームにおける日常的コミュニケーション, ノーフー共有, 暗黙の協調  | ○縄田 健悟<br>山口 裕幸<br>青島 未佳                 | 福岡大学<br>九州大学<br>産学連携機構九州               |

## O06 口頭発表

第1日 (10月28日) 10:40 ~ 12:10

K棟 3F K313

### 社会・環境問題

座長 上瀬 由美子

- |      |   |  |
|------|---|--|
| O061 | 10:40 ~ 10:55<br>破壊的カルトにおけるビリーフ・システムの形成・変容／維持・強化 (2)<br>マインド・コントロール技術の団体間比較とビリーフ・システムへの影響   | ○木村 真利子 立正大学<br>西田 公昭 立正大学   |
| O062 | 10:55 ~ 11:10<br>破壊的カルト脱会者の心理的回復過程 (2)<br>—心理的回復過程モデルの妥当性の検討—                               | ○渡邊 和弥 立正大学<br>西田 公昭 立正大学  |
| O063 | 11:10 ~ 11:25<br>Influences of Demographic Factors on Pro-environmental Behaviours in Japan | ○Yanyan Chen Doshisha University<br>Yuejun Zheng Doshisha University |
| O064 | 11:25 ~ 11:40<br>メッセージが省エネ製品購入意図に及ぼす効果の実験的検討<br>相互協調的自己観との関連                                | ○安藤 香織 奈良女子大学<br>杉浦 淳吉 慶應義塾大学<br>大沼 進 北海道大学<br>安達 菜穂子 大阪市立大学         |
| O065 | 11:40 ~ 11:55<br>フランスの高レベル放射性廃棄物処分場開発に対する賛否態度の規定因と可逆性の効果                                    | ○青木 俊明 東北大学<br>吉澤 拓也 日本工営(株)   |
| O066 | 11:55 ~ 12:10<br>非誘致型の官民協働刑務所開設に伴う近隣住民の態度変容<br>—播磨社会復帰促進センター近隣住民に対する意識調査—                   | ○上瀬 由美子 立正大学   |



# O07 口頭発表

第1日 (10月28日) 10:40 ~ 11:55

K棟 3F K312

## 安全・防災

座長 杉浦 淳吉

O071	10:40 ~ 10:55 リスクコミュニケーションのアクティブ手法の開発と効果・普及	○杉浦 淳吉 竹村 和久 高木 彩 織 朱實 梶山 浩 吉川 肇子	慶應義塾大学 早稲田大学 千葉工業大学 上智大学 国立医薬品食品衛生研究所 慶應義塾大学
O072	10:55 ~ 11:10 セカンドプライスオークション法を用いたリスクコミュニケーションの効果測定	○竹村 和久 杉浦 淳吉 高木 彩 織 朱實 梶山 浩 吉川 肇子	早稲田大学 慶應義塾大学 千葉工業大学 上智大学 国立医薬品食品衛生研究所 慶應義塾大学
O073	11:10 ~ 11:25 NIMBY問題における正当性と受容意図 “誰がなぜゲーム”による承認-受容モデルの検討	○野波 寛 大友 章司 坂本 剛 田代 豊	関西学院大学 甲南女子大学 名古屋産業大学 名桜大学
O074	11:25 ~ 11:40 福島第一原発事故後の除染事業における手続き的公正感と信頼	○山口 文恵 坂田 桐子	広島大学 広島大学
O075	11:40 ~ 11:55 東日本大震災を経験した行政職員の職場意識が住民に対する態度に与える影響	○高橋 尚也 古屋 健 坂田 成輝	立正大学 立正大学 東海大学

社会的認知 2

座長 三浦 麻子

O081	10:40 ~ 10:55 信頼と裏切り回避 自他間の資源分配に関する選好と信頼行動の関係	○黒田 起吏 亀田 達也	東京大学 東京大学
O082	10:55 ~ 11:10 How am I popular really? Egocentric orientation in social network memory task	○加藤 仁 五十嵐 祐	名古屋大学 名古屋大学
O083	11:10 ~ 11:25 解釈レベルと目標志向が態度変化に及ぼす影響 —レベル調整の有効性に着目して—	○寺田 未来	大手前大学
O084	11:25 ~ 11:40 「裸の王様」型の社会規範が分配的正義の合意形成に及ぼす影響	○上島 淳史 亀田 達也	東京大学 東京大学
O085	11:40 ~ 11:55 ネット利用でレイシズムが強まりやすいのは誰か? “2ちゃんねる” および “まとめサイト” の効果の検討	○高 史明	神奈川大学
O086	11:55 ~ 12:10 オンライン調査における努力の最小限化がデータに及ぼす影響 顕在的/潜在的態度測定による検討	○三浦 麻子 小林 哲郎	関西学院大学 香港城市大学

# O09 口頭発表

第2日 (10月29日) 9:00 ~ 10:15

K棟3F K314

## 社会的ジレンマ

座長 竹村 幸祐

O091	9:00 ~ 9:15 社会的ジレンマと囚人のジレンマ指標の相関 —愛着における見捨てられ不安と親密性回避要因の影響—	○安念 保昌 高橋 徹	愛知みずほ大学 愛知みずほ大学
O092	9:15 ~ 9:30 罰が進化するための最小要因：行動エラーの影響	○土田 修平 竹澤 正哲	北海道大学 北海道大学
O093	9:30 ~ 9:45 情報の非対称が存在する二者間における監視の効果	○小杉 素子 渡部 幹	静岡大学 モナッシュ大学マレーシア校
O094	9:45 ~ 10:00 一部のメンバーによる話し合いが話し合い不参加者に与える影響 公共財ゲームを用いた検討	○北梶 陽子 肥前 洋一 大沼 進	広島大学 高知工科大学 北海道大学
O095	10:00 ~ 10:15 規範が協力行動を支えなくなる条件：個人の住居流動性 vs. コミュニティの住居流動性	○竹村 幸祐 福島 慎太郎 内田 由紀子	滋賀大学 青山学院大学 京都大学

# O10 口頭発表

第2日 (10月29日) 9:00 ~ 10:15

K棟3F K313

## 態度・信念・価値

座長 村山 綾

- |      |  |   |   |
|------|--|---|---|
| O101 | 9:00 ~ 9:15<br>日本語版 Moral Foundation Questionnaire の妥当性<br>2因子モデルにもとづく政治的態度との関連の検証 | ○村山 綾<br>三浦 麻子                          | 近畿大学<br>関西学院大学                                      |
| O102 | 9:15 ~ 9:30<br>Moral Foundations Dictionary 日本語版を用いた道德違<br>反単語数の比較                 | ○松尾 朗子<br>笹原 和俊<br>田口 靖啓<br>唐沢 穰        | 名古屋大学<br>名古屋大学・JSTさきがけ<br>愛知大学<br>名古屋大学             |
| O103 | 9:30 ~ 9:45<br>暗黙理論による課題選択方略の検討<br>—課題難易度に対する柔軟性に着目して—                             | ○鈴木 啓太<br>村本 由紀子                        | 東京大学<br>東京大学  |
| O104 | 9:45 ~ 10:00<br>詐欺の手口はどのようにして思い出されるのか?<br>—情報処理ルートが予告の想起に与える影響—                    | ○大工 泰裕<br>釘原 直樹                         | 大阪大学<br>大阪大学  |
| O105 | 10:00 ~ 10:15<br>「公共心」および「つながり」と海洋生態系サービス保<br>全に対する支払意志額との関係                       | ○脇田 和美<br>黒倉 壽<br>大石 太郎<br>申 中華<br>古谷 研 | 東海大学<br>東京大学<br>福岡工業大学<br>(株)麗徳文成国際ビジネスサポート<br>東京大学 |

# O11 口頭発表

第2日 (10月29日) 9:00 ~ 10:15

K棟3F K312

## 援助

座長 大沼 進

- |      |   |   |   |
|------|---|---|---|
| O111 | 9:00 ~ 9:15<br>ダークトライアドは非社会的な特性か？<br>—流動性がダークトライアド特性と援助行動の關係に及ぼす効果—   | ○日道 俊之<br>野村 理朗                                   | 高知工科大学<br>京都大学  |
| O112 | 9:15 ~ 9:30<br>向社会的行動における右側背外側前頭前野の役割   | ○高岸 治人<br>坂上 雅道<br>山岸 俊男                          | 玉川大学<br>玉川大学<br>一橋大学  |
| O113 | 9:30 ~ 9:45<br>Mortality salience and altruistic egoism in groups<br>Focusing on social identity and group permeability | ○古橋 健悟<br>五十嵐 祐                                   | 名古屋大学<br>名古屋大学  |
| O114 | 9:45 ~ 10:00<br>震災に対する援助行動とその要因について<br>-熊本地震、東日本大震災に着目して-   | ○木村 拓真<br>片桐 恵子                                   | 神戸大学<br>神戸大学  |
| O115 | 10:00 ~ 10:15<br>募金行動に記述的規範が与える影響：函館山山頂での社会実験   | ○大沼 進<br>小林 翼<br>安保 芳久<br>中俣 友子<br>飯野 麻里<br>横山 実紀 | 北海道大学<br>(株)住環境計画研究所<br>北海道環境財団<br>東北文教大学<br>北海道大学<br>北海道大学 |

O12 口頭発表

第2日 (10月29日) 9:00 ~ 10:15

K棟3F K305

感情・動機 1

座長 小宮 あすか

- |   |   |
|---|---|
| <p>O121 9:00 ~ 9:15<br/>不公平分配の拒否とセロトニントランスポーター遺伝子多型の関連</p>                        | <p>○仁科 国之 玉川大学・日本学術振興会<br/>高岸 治人 玉川大学<br/>竹村 有由 京都大学<br/>井上-村山 美穂 京都大学<br/>高橋 英彦 京都大学<br/>山岸 俊男 一橋大学</p>                      |
| <p>O122 9:15 ~ 9:30<br/>心のゆとりはネガティブ感情状態からの回復を促進するか? :<br/>心のゆとりの感じやすさと感情制御の関連</p> | <p>○小林 亮太 広島大学<br/>宮谷 真人 広島大学<br/>中尾 敬 広島大学</p>   |
| <p>O123 9:30 ~ 9:45<br/>個人と集団全体の死の顕現化が内集団批判者の評価に与える影響<br/>集団的死の顕現化操作により検討</p>     | <p>○法 弁 大阪大学<br/>釘原 直樹 大阪大学<br/>綿村 英一郎 大阪大学<br/>寺口 司 大阪大学</p>   |
| <p>O124 9:45 ~ 10:00<br/>実際の結果・あり得た結果の評価に関わる神経活動・生理反応</p>                         | <p>○後藤 崇志 滋賀県立大学<br/>日道 俊之 高知工科大学<br/>小宮 あすか 広島大学<br/>榊 美知子 University of Reading<br/>村山 航 University of Reading</p>          |
| <p>O125 10:00 ~ 10:15<br/>対人的後悔は学習を促進するか: カードゲーム課題を用いた検討 (2)</p>                  | <p>○小宮 あすか 広島大学<br/>Jasmine April Louise Raw レディング大学<br/>村山 航 レディング大学<br/>榊 美知子 レディング大学<br/>後藤 崇志 滋賀県立大学<br/>日道 俊之 高知工科大学</p> |

# O13 口頭発表

第2日 (10月29日) 10:25 ~ 11:40

K棟3F K314

## 産業・組織

座長 井川 純一

- |      |  |                           |                        |
|------|--|---------------------------|------------------------|
| O131 | 10:25 ~ 10:40<br>釈明が組織の印象改善に及ぼす効果<br>社会的脅威と謝罪の効果の関係          | ○膳場 百合子                   | 早稲田大学                  |
| O132 | 10:40 ~ 10:55<br>職場満足感と相互協調的自己観の自発的協力行動への影響                  | ○勝村 史昭<br>阿久津 聡           | 一橋大学<br>一橋大学           |
| O133 | 10:55 ~ 11:10<br>情緒的コミットメントはプロアクティブ行動を促すか：<br>人材流動性の調整効果     | ○正木 郁太郎<br>森 行範<br>村本 由紀子 | 東京大学<br>東京大学<br>東京大学   |
| O134 | 11:10 ~ 11:25<br>女性の昇進意欲に対する企業の具体的施策の有効性                     | ○西舘 奏江                    | 三菱スペース・ソフトウェア(株)       |
| O135 | 11:25 ~ 11:40<br>バーンアウト傾向にGrit特性が与える影響<br>主観的報酬との関連に着目した職種比較 | ○井川 純一<br>中西 大輔<br>王 瑋    | 大分大学<br>広島修道大学<br>広島大学 |

身近な人間関係

座長 相馬 敏彦

- |      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| O141 | 10:25 ~ 10:40<br>夫婦関係と適応(2)<br>—共有された関係効力性が主観的・心理的幸福感に与える影響—                  | ○浅野 良輔<br>古村 健太郎<br>金政 祐司                | 久留米大学<br>弘前大学<br>追手門学院大学                                 |
| O142 | 10:40 ~ 10:55<br>夫婦関係と適応(3)<br>—接近・回避コミットメントと心理的暴力の被害経験—                      | ○古村 健太郎<br>金政 祐司<br>浅野 良輔                | 弘前大学<br>追手門学院大学<br>久留米大学                                 |
| O143 | 10:55 ~ 11:10<br>激しい競争が男性の献身を生み出す<br>—恋人保持行動に対する関係流動性と女性の配偶価値の交互作用効果—         | ○山田 順子<br>結城 雅樹                          | 北海道大学<br>北海道大学   |
| O144 | 11:10 ~ 11:25<br>ストーカーについての実態調査(4)<br>—親密な関係破綻後のストーカー的行為の加害リスク要因に関する探索的研究—    | ○金政 祐司<br>山本 功<br>荒井 崇史<br>石田 仁<br>島田 貴仁 | 追手門学院大学<br>淑徳大学<br>追手門学院大学<br>(公財)日工組社会安全研究財団<br>科学警察研究所 |
| O145 | 11:25 ~ 11:40<br>相手からのネガティブな行為がポジティブにみえるとき<br>—親密な関係におけるコミットメント・デバイスとしての行為解釈— | ○相馬 敏彦<br>伊藤 言                           | 広島大学<br>東京大学   |



# O15 口頭発表

第2日 (10月29日) 10:25 ~ 11:40

K棟3F K312

## 文化1

座長 堀田 結孝

- |      |   |  |   |
|------|---|--|---|
| O151 | 10:25 ~ 10:40<br>シンプソンのパラドックスが生じる条件<br>統計シミュレーションによる検討          | ○堀田 結孝                                     | 帝京大学  |
| O152 | 10:40 ~ 10:55<br>「トロッコ問題」における倫理判断と行動意図の乖離<br>～関係流動性を用いた比較社会的検討～ | ○山本 翔子<br>結城 雅樹<br>Robert THOMSON          | 北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学                           |
| O153 | 10:55 ~ 11:10<br>関係流動性による賞賛行動の抑制と促進                             | ○張 鳳芝<br>山本 翔子<br>結城 雅樹                    | 北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学                           |
| O154 | 11:10 ~ 11:25<br>美しさの文化進化：世代間伝達実験を用いた探索的<br>検討                  | ○須山 巨基<br>片山 沙苗<br>千坂 優希<br>中島 彩花<br>竹澤 正哲 | 北海道大学・日本学術振興会<br>北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学<br>北海道大学 |
| O155 | 11:25 ~ 11:40<br>宗教的信念とメンタライジング能力、および自閉症スペ<br>クトラム傾向の関連         | ○石井 辰典                                     | 東京成徳大学  |

感情・動機2

座長 竹橋 洋毅

- |      |   |  |  |
|------|---|--|--|
| O161 | 10:25 ~ 10:40<br>増大的知能観によるストレスの悪影響の緩和効果<br>通信制高等学校生徒を対象とした検討          | ○竹橋 洋毅<br>小林 寛子<br>平部 正樹<br>藤後 悦子<br>藤本 昌樹 | 関西福祉科学大学<br>東京未来大学<br>東京未来大学<br>東京未来大学<br>東京未来大学 |
| O162 | 10:40 ~ 10:55<br>就職活動における暗黙の才能観の役割<br>—困難を乗り越える心のメカニズム—               | ○大久保 慧悟<br>竹橋 洋毅                           | ディップ(株)<br>関西福祉科学大学                              |
| O163 | 10:55 ~ 11:10<br>感謝体験者の感情と行動に恩恵の相対的な大きさが及ぼす影響                         | ○山本 晶友<br>樋口 匡貴                            | 上智大学<br>上智大学                                     |
| O164 | 11:10 ~ 11:25<br>感謝感情と負債感情が向社会的行動の生起に及ぼす影響の検討<br>制御焦点理論に基づく状態的動機の観点から | ○吉野 優香<br>相川 充                             | 筑波大学・日本学術振興会<br>筑波大学                             |
| O165 | 11:25 ~ 11:40<br>中高年期の親子における制御焦点傾向の類似性                                | ○田淵 恵<br>三浦 麻子                             | 関西学院大学・日本学術振興会<br>関西学院大学                         |

对人的相互作用

座長 大坪 庸介

- |  |  |   |
|--|--|---|
| <p>O171 14:35 ~ 14:50<br/>Seeking a sense of power or security from personal communities :<br/>Motivational basis of community affiliation</p> | <p>○平島 太郎<br/>五十嵐 祐</p>  | <p>愛知淑徳大学<br/>名古屋大学</p>   |
| <p>O172 14:50 ~ 15:05<br/>会話場面における予言の自己成就的プロセスの検討<br/>欺瞞性認知に聞き手の態度が及ぼす影響</p>   | <p>○品田 瑞穂</p>  | <p>東京学芸大学</p>   |
| <p>O173 15:05 ~ 15:20<br/>複数の相手にはなぜ情報を共有しにくいのか<br/>—低実体性が情報共有意欲に及ぼす効果の検討—</p>  | <p>○梁 庭昌<br/>林 釗<br/>相馬 敏彦</p>   | <p>広島大学<br/>広島大学<br/>広島大学</p>   |
| <p>O174 15:20 ~ 15:35<br/>友人の価値は効用計算で決まるのか?<br/>コミットメント・シグナルへの応答性に関するfMRI実験</p>  | <p>○大坪 庸介<br/>松永 昌宏<br/>日道 俊之<br/>鈴木 孝太<br/>柴田 英治<br/>堀 礼子<br/>梅村 朋弘<br/>大坪 英樹</p> | <p>神戸大学<br/>愛知医科大学<br/>高知工科大学<br/>愛知医科大学<br/>愛知医科大学<br/>愛知医科大学<br/>愛知医科大学<br/>名古屋大学</p> |

## O18 口頭発表

第2日 (10月29日)

14:35 ~ 15:35

K棟3F K313

### 対人的コミュニケーション

座長 谷田 林士

- |      |  |  |  |
|------|--|--|--|
| O181 | 14:35 ~ 14:50<br>ソシオセクシャリティと街中での話しかけに対するリスク認知                        | ○仲嶺 真                                      | 筑波大学・日本学術振興会                                 |
| O182 | 14:50 ~ 15:05<br>逆位相のシンクロニーは一体感と独自性を知覚させる                            | ○藤原 健                                      | 大阪経済大学                                       |
| O183 | 15:05 ~ 15:20<br>強い紐帯の維持・強化のために携帯通話が行われるのか<br>東日本大震災を題材とした実験         | ○鈴木 貴久<br>小林 哲郎<br>田中 優子<br>脇本 竜太郎<br>鈴木 努 | 津田塾大学<br>香港城市大学<br>名古屋工業大学<br>明治大学<br>東北学院大学 |
| O184 | 15:20 ~ 15:35<br>コミュニケーション能力に資する共感性向上トレーニング<br>—表情模倣を促進する可視化システムの開発— | ○谷田 林士<br>内田 萌<br>三村 安純                    | 大正大学<br>(株)ムトウ                               |

文化2

座長 吉澤 寛之

- |   |  |
|---|--|
| <p>O191 14:35 ~ 14:50<br/>                 社会化エージェントの多層的影響に関する研究 (26)<br/>                 —Mover-stayer潜在移行分析によるエージェント資源と<br/>                 反社会性の関連の検討—</p> | <p>○吉澤 寛之 岐阜大学<br/>                 吉田 琢哉 岐阜聖徳学園大学<br/>                 原田 知佳 名城大学<br/>                 浅野 良輔 久留米大学<br/>                 玉井 颯一 名古屋大学・日本学術振興会<br/>                 吉田 俊和 岐阜聖徳学園大学</p>   |
| <p>O192 14:50 ~ 15:05<br/>                 省略三段論法についての比較文化研究</p>  | <p>○山 祐嗣 大阪市立大学<br/>                 Kyung Soo Do Sungkyunkwan University<br/>                 Niall Galbraith University of Wolverhampton<br/>                 Norhayati Zakaria University of Wollongong in Dubai<br/>                 Veronique Salvano-Pardieu University of Tours<br/>                 Minli Chiu Holding Self Counselling Center</p> |
| <p>O193 15:05 ~ 15:20<br/>                 異文化での定住に向けて：その実態と関与因<br/>                 —EPA介護福祉士候補者として来日したインドネシア人の<br/>                 場合—</p>                   | <p>○箕浦 康子 お茶の水女子大学<br/>                 浅井 亜紀子 桜美林大学</p>   |
| <p>O194 15:20 ~ 15:35<br/>                 異文化体験と帰国後のキャリア<br/>                 —元EPA介護福祉士候補者として来日したインドネシ<br/>                 ア人の場合—</p>                        | <p>○浅井 亜紀子 桜美林大学<br/>                 箕浦 康子 お茶の水女子大学</p>   |

消費

座長 池内 裕美

- |      |  |                 |                    |
|------|--|-----------------|--------------------|
| O201 | 14:35 ~ 14:50<br>コスト消費の期待を生み出す神経基盤                         | ○柳澤 邦昭<br>阿部 修士 | 京都大学<br>京都大学       |
| O202 | 14:50 ~ 15:05<br>文脈情報と価値判断：利得，損失が徐々に変化した場合の検討              | ○野田 理世<br>田邊 宏樹 | 金城学院大学<br>名古屋大学    |
| O203 | 15:05 ~ 15:20<br>割引食品に対する衝動性と生活史および健康度の関係                  | ○豊沢 純子<br>竹橋 洋毅 | 大阪教育大学<br>関西福祉科学大学 |
| O204 | 15:20 ~ 15:35<br>人はモノに感情移入できるか<br>— 擬人化商品への感情移入に関する探索的検討 — | ○池内 裕美          | 関西大学               |

# P1 ポスター発表

第1日 (10月28日) 17:00 ~ 18:30

K棟1Fラウンジ

在席責任時間 奇数番号 : 17:10 ~ 17:55 偶数番号 : 17:35 ~ 18:20

P101	質問紙の回答行動に対する自己概念と文脈の効果 —認知的過程モデルにもとづく検証—	○木村 邦博 上原 俊介	東北大学 鈴鹿医療科学大学
P102	公募型 Web 調査における回答デバイスと回答傾向 (1) スマートフォン回答者の回答者特性と回答ストレス	○山田 一成 江利川 滋	東洋大学 (株)TBSテレビ
P103	公募型 Web 調査における回答デバイスと回答傾向 (2) 回答デバイスによるテレビ視聴時間回答の変化	○江利川 滋 山田 一成	(株)TBSテレビ 東洋大学
P104	国内の私立大学における統計教育の実態調査	○安部 健太	学習院大学
P105	セルフコンパッションの高い人に対する印象評価の検討 —特性セルフコンパッションとネガティブ信念に着目して—	○宮川 裕基 谷口 淳一	帝塚山大学 帝塚山大学
P106	年金生活者は移住者に開放的か? —自尊感情の2側面 (自己評価・自己受容) に注目して—	○箕浦 有希久 内田 由紀子 一言 英文 竹村 幸祐 福島 慎太郎	関西学院大学 京都大学 福岡大学 滋賀大学 青山学院大学
P107	自我脅威状況における perspective の拡大と防衛反応の 低減についての検討	○中島 健一郎 本堂 楓斗	広島大学 大正富山医薬品(株)
P108	マルチタスク習慣は先延ばしを促進するのか?	○原田 知佳	名城大学
P109	目標と誘惑の両立が目標の進展に及ぼす影響	○小林 麻衣	立正大学
P110	内集団への忠誠がサイコパスと共感性の関連に及ぼす影響	○田村 紋女 杉浦 義典	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P111	体型印象管理予期と瘦身願望の関連における調整要因 瘦身評価の有無を調整要因とした検討	○鈴木 公啓	東京未来大学
P112	対人関係満足度および自尊感情の因果分析 —年齢による因果関係の違い—	○中原 純 唐澤 真弓	聖学院大学 東京女子大学
P113	嗜好品のもつ自己演出的要素の検討	○中間 玲子	兵庫教育大学
P114	ありのまま信念尺度の作成	○谷口 淳一	帝塚山大学
P115	制御焦点による感情アクセシビリティ変化と3次元モデルによる解釈	○佐藤 俊雄 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P116	Do the boughs that bear most hang lowest? The relationships of trait-level gratitude with self-reported prestige and dominance	○白木 優馬 五十嵐 祐	名古屋大学・日本学術振興会 名古屋大学
P117	シャーデンフロイデ及び同情に関する研究	○相羽 将智 神菌 紀幸 坂田 桐子	広島大学 志學館大学 広島大学
P118	思考抑制の逆説的効果と反すう傾向の関連	○服部 陽介	京都学園大学

ポスター発表P1 第1日

P119	ノスタルジアが本来性に及ぼす影響の検討 想起内容の質的差異に着目して	○長峯 聖人 外山 美樹	筑波大学・日本学術振興会 筑波大学
P120	文化的志向性が不確実性喚起後の接近動機再活性化 に及ぼす影響	○寺嶌 裕登 高井 次郎	名古屋大学 名古屋大学
P121	児童期の内在化問題行動の予測因 幼児期の生理的ストレス反応と親のしつけについての縦 断的データによる検討	○風間 みどり 平林 秀美 唐澤 真弓	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学
P122	ユーモア志向性尺度の形態と動機による分類 (2)	○本郷 亜維子	東洋大学
P123	解釈レベル操作がハンドグリップ制御に及ぼす影響 Fujita, Trope, Liberman, & Levi-Sage (2006, Study 2) の追試研究	○藤島 喜嗣 三浦 麻子 鈴木 伸子 渡邊 寛	昭和女子大学 関西学院大学 筑波大学・日本学術振興会
P124	セルフコントロール特性の高さがトレーニングの効果に 及ぼす影響	○沓澤 岳 尾崎 由佳	東洋大学 東洋大学
P125	転換的語り直しが潜在的態度に与える影響 ーネガティブな経験に対する潜在的態度の検討ー	○佐藤 研一郎	中央大学
P126	MCII (Mental Contrasting & Implementation Intention) による達成促進効果の検証	○尾崎 由佳 成田 範之 逢坂 宏子 沓澤 岳 深瀬 菜瑛子	東洋大学 パーソルチャレンジ(株) パーソルプロセス&テクノロジー(株) 東洋大学 東洋大学
P127	心理的距離が道徳判断に与える効果についての検討 ー時間的距離と道徳的偽善に視座を定めてー	○岡田 真波 唐沢 かおり	東京大学 東京大学
P128	制御焦点の違いが透明性の錯覚に及ぼす影響 ー個人の焦点化のしやすさの傾向に着目してー	○吉川 ひかる 戸田 弘二	北海道教育大学 北海道教育大学
P129	食品の安全性に関するリーフレットの有効性の検討 福島第一原発事故に伴う風評被害の対策という観点か ら	○樋口 収 埴田 健司	明治大学 東京未来大学
P130	自由意志信念が道徳的判断に及ぼす影響 実験操作による自由意志信念の影響の変化に着目して	○笠原 伊織 唐沢 かおり	東京大学 東京大学
P131	調査主体の属性に応じた質問紙への回答が回答者自 身の判断に与える影響	○菅 さやか 太幡 直也 宮本 聡介	愛知学院大学 愛知学院大学 明治学院大学
P132	分配の正義と不確実性下の意思決定の共通基盤 視線追尾装置 (Eye tracker) による検証	○齋藤 美松 小川 昭利 小谷 侑輝 亀田 達也	東京大学・日本学術振興会 順天堂大学 北海道大学 東京大学
P133	集団フォーマル性と指示の抽象度がリーダー評価に及 ぼす影響	○田中 知恵	明治学院大学
P134	言霊に関する態度と行為 (3) ーギャンブラーの視点からー	○村上 幸史	神戸山手大学



ポスター発表P1 第1日

P135	ステレオタイプ内容モデルによるうつ病患者イメージの検討	○田戸岡 好香 植松 幹太 谷辺 哲史 唐沢 かおり	長野県短期大学 川崎市こども未来局 東京大学 東京大学
P136	数学能力に関する性ステレオタイプの活性化が女性の数学課題成績に及ぼす影響	○朝川 明男 岡 隆	日本大学 日本大学
P137	ピンク/青の化粧がジェンダー的な選択に及ぼす効果	○石井 国雄 田戸岡 好香	清泉女学院大学 長野県短期大学
P138	オタク・腐女子のジェンダー意識と恋愛強迫観念	○山岡 重行	聖徳大学
P139	内集団肯定化が外集団好ましさに及ぼす影響 認知的完結欲求とワーキングメモリキャパシティの調整効果	○吉田 綾乃	東北福祉大学
P140	自動翻訳を介したSNSでの国際交流が相手国の人々への態度に与える影響 (4) —潜在尺度を用いた直接接触・間接触・事前知識獲得効果—	○寺本 水羽 松尾 由美 田島 祥 渋谷 恵 岩坪 千晶 坂元 章	お茶の水女子大学 関東短期大学 東海大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P141	偏見の克服における仮想接触理論の効果とその応用探索 日本人の韓国人に対する偏見	○胡 安琪 高井 次郎	名古屋大学 名古屋大学
P142	都鄙間格差の認知と地域ステレオタイプ	○矢田 尚也 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P143	“男と女はこんなに違う”は受け入れられているのか 効果量の図視化を用いたジェンダー類似モデルとの比較検証および両面価値的性差別の影響	○倉矢 匠 安藤 清志	東洋大学 東洋大学
P144	加害者の道徳性が因果推論に与える影響とその規定要因	○遠山 素乃子 唐沢 穰	名古屋大学 名古屋大学
P145	一般用医薬品外箱の記載内容に関する調査 —安全に関わる情報の記載位置と重要性—	○鈴木 靖子	成城大学
P146	主観的知識量が情報探索行動と電磁波のリスク認知に及ぼす影響 (1) —比較対象者を操作した実験的検討—	○高木 彩 小森 めぐみ 今野 将	千葉工業大学 四天王寺大学 千葉工業大学
P147	主観的知識量が情報探索行動と電磁波のリスク認知に及ぼす影響 (2) —比較対象物を操作した実験的検討—	○小森 めぐみ 高木 彩 今野 将	四天王寺大学 千葉工業大学 千葉工業大学
P148	記述的規範認知のバイアスと関連する要因の検討	○村上 史朗	奈良大学
P149	不思議現象に対する態度改訂版尺度による回答者の類型化 不思議現象に対する態度 (55)	○小城 英子 坂田 浩之 川上 正浩	聖心女子大学 大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学
P150	不思議現象に対する態度と精神的健康・主観的幸福感の関連 不思議現象に対する態度 (56)	○坂田 浩之 川上 正浩 小城 英子	大阪樟蔭女子大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学

ポスター発表P1 第1日

- P151 非行少年に対する態度の構造 ○藤原 佑貴 科学警察研究所  
稲垣 (藤井) 勉 鹿児島大学
- P152 発表日程変更
- P153 シャイネスに対するイメージの日米比較 ○澤海 崇文 流通経済大学・NPO 法人教育テスト研究センター (CRET)  
稲垣 (藤井) 勉 鹿児島大学・CRET  
相川 充 筑波大学・CRET
- P154 手洗い意識・行動の促進に対する効果的な介入方法の検討 ○山崎 真理子 鹿児島大学  
島村 裕子 静岡県立大学  
細菌・汚れ情報の提供方法の違い (統計データ or 写真) を比較 増田 修一 静岡県立大学
- P155 他者志向性とコミュニケーション欲求の変化についての検討 ○大坪 寛子 慶應義塾大学  
2013年調査結果との比較
- P156 同性の意見にもとづいた異性の評価を男性もするのか? ○天野 陽一 首都大学東京

## P2 ポスター発表

第1日 (10月28日) 17:00 ~ 18:30

西2福利会館

在席責任時間 奇数番号 : 17:10 ~ 17:55 偶数番号 : 17:35 ~ 18:20

P201	親友の愛着機能は幼少期の愛着を補償するか 青年期の自己受容への影響	○外尾 安由子 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P202	教育実習生が経験する透明性錯覚 実習後の回顧による事例の分析	○武田 美亜 戸田 弘二 樋口 収	青山学院女子短期大学 北海道教育大学 明治大学
P203	ひざ掛けは心を暖めるか (2)	○浦 光博 川本 大史	追手門学院大学 東京大学・日本学術振興会
P204	類似経験による認知的共感の正確性と確信度	○石川 咲子 橋本 剛	清水区役所 静岡大学
P205	間接的要求の解釈傾向と報酬感受性との関連	○平川 真	広島大学
P206	発言内容が欺瞞性認知に及ぼす影響 —経験や意見の主観的な類似性が信じやすさを促進するの—	○滝口 雄太	東洋大学
P207	いじり行動の頻度といじりのイメージおよび適応感との 関連	○吉澤 英里 望月 正哉 澤海 崇文 瀧澤 純	環太平洋大学 日本大学 流通経済大学 ノースアジア大学
P208	パワーポーズがスピーチのパフォーマンスに及ぼす影 響 Cuddy, Wilmuth, Yap, & Carney (2015) の追試的検討	○樋口 匡貴 丹羽 沙也加	上智大学 千葉地方裁判所
P209	シャイネスが電話応対行動に与える影響	○小幡 直弘	北星学園大学
P210	Teachers' decoding accuracy of nonverbal cues of For- eign Language Anxiety (FLA) amongst Japanese learners of English : A replication study of Gregersen (2007)	○Atsuko Aono Jim King Yuki Miyazaki	Fukuyama University University of Leicester Fukuyama University
P211	会話後の社会的スキルに対する自己評価が高い人と低 い人の違い 時期とポジティブ・フィードバックによる自己評価の変 化に着目して	○小川 一美	愛知淑徳大学
P212	首都圏勤労者の“コミュニケーション力”イメージと態 度の関連	○渡部 麻美	東洋英和女学院大学
P213	感謝表出スキルが知覚されたサポートを媒介して孤独 感に及ぼす影響過程	○酒井 智弘 相川 充	筑波大学 筑波大学
P214	観劇と議論を通じた双方向学習によるホームレスの社会 適応スキルの改善	○藤本 学	立命館大学
P215	ネット上の情報発信に関わる規範意識と社会的スキル の関連性	○石川 真 平田 乃美	上越教育大学 白鷗大学
P216	排斥手がかりに対する注意の配分と特性自尊心の関連	○伊崎 翼 小川 景子	広島大学 広島大学

ポスター発表P2 第1日

P217	感染症脅威の顕在化と親密関係における関係促進反応	○宮崎 弦太 石田 小百合 川口 詩織 長谷川 悠子	東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学 東京女子大学
P218	友人関係目標が友人関係および社会的適応感に与える影響	○佐竹 将希 神山 貴弥	同志社大学 同志社大学
P219	大学生における失恋時の相手の態度認知	○城間 益里	筑波大学
P220	短期的配偶戦略がペイするとき生活史戦略と外見的魅力	○石黒 格	日本女子大学
P221	自尊心の違いは異性を見極め、惹きつける要因となるのか？ SpeedDatingを用いた検討	○新造 一正 西村 太志 相馬 敏彦 鬼頭 美江 山田 順子 谷口 淳一 金政 祐司	サンキ・ウエルビー(株) 広島国際大学 広島大学 明治学院大学 北海道大学 帝塚山大学 追手門学院大学
P222	妊婦の対人関係に関する検討 (1) 一夫婦関係満足度と社会的代理人としての夫の利用が妻のネットワークサイズに及ぼす影響一	○西村 太志 長沼 貴美 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 片桐 咲恵	広島国際大学 創価大学 北海学園大学 広島大学 山口大学
P223	妊婦の対人関係に関する検討 (2) 一ネットワークサイズと自己効力感予期が主観的幸福感に及ぼす影響一	○片桐 咲恵 西村 太志 長沼 貴美 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦	山口大学 広島国際大学 創価大学 北海学園大学 広島大学
P224	妊婦の対人関係に関する検討 (3) 一周囲から得たサポートや情報に関する初産婦・経産婦の差異一	○長沼 貴美 西村 太志 古谷 嘉一郎 相馬 敏彦 片桐 咲恵	創価大学 広島国際大学 北海学園大学 広島大学 山口大学
P225	大学生のアルバイトが問題化する心理過程の探索的検討	○松井 豊 城間 益里 渡部 麻美 市村 美帆 高本 真寛 高田 治樹	筑波大学 筑波大学 東洋英和女学院大学 目白大学 横浜国立大学 立教大学
P226	集団内地位と規範遵守行動の関係についての実験的検討	○岩谷 舟真 村本 由紀子	東京大学・日本学術振興会 東京大学
P227	リーダーとフォロワーの関係がリーダー評価に与える影響 一所属期間が短期の者と長期の者の比較一	○森下 雄輔 谷口 淳一	神戸学院大学 帝塚山大学
P228	教員による自律的貢献を促す学校組織特性 II	○鎌田 雅史	就実短期大学
P229	教師の2つの指導機能が児童の学習意欲に及ぼす効果のメカニズム検討	○弓削 洋子	愛知教育大学

ポスター発表P2 第1日

P230	社会的階層が非倫理的行動に及ぼす影響 —勢力、地位、及び自己意識の観点から—	○西村 悠人 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P231	ラベリングが集団間葛藤の記憶に与える影響 再認課題を用いた検討	○寺口 司 釘原 直樹	大阪大学 大阪大学
P232	Our dehumanization depends on whether they accept apologies : Japanese dehumanization of Koreans based on perceived forgiveness of the past	○パク ジュナ Sanghee Park Mungeol Kim	名古屋商科大学 Chungbuk National University, S. Korea Chungbuk National University, S. Korea
P233	専門学校生・大学生を対象にしたスクールカーストの 回顧的調査 —スクールカーストの認知・印象、現在の態度との関 連—	○水野 君平	北海道大学
P234	実効性比と協力期待 —企業データを用いた分析—	○杉浦 仁美 坪井 翔 三船 恒裕 横田 晋大	立命館大学 (株)応用社会心理学研究所 高知工科大学 広島修道大学
P235	「自発性」はいつ「義務」になるか？ —倫理的リーダーシップのダークサイド—	○王 瑋 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P236	緊急事態のリーダーシップ 「フクシマ」からの考察	○小久保 みどり	立命館大学
P237	欲求不満状況における利用者のサービス従事者への 態度 鉄道における利用者の従事者への立場の認知と対応 方法に関する予備的検討	○岡田 安功 畠山 直 宮地 由芽子 楠見 孝	(公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所 (公財) 鉄道総合技術研究所 京都大学
P238	派遣労働者におけるソーシャルサポートのストレス緩衝 効果 派遣先および派遣元のサポート源による検討	○田中 健吾	大阪経済大学
P239	ワークライフバランスと職務満足感、キャリア計画性、 育児展望の関係性 —育児中の働いている夫婦を対象とした検討—	○古谷 嘉一郎	北海学園大学
P240	学生アルバイトによる「ブラックバイト」認知の構造	○吉原 克枝	福岡工業大学短期大学部
P241	ホワイトカラーにおけるリフレクション尺度開発の試み リフレクションの対象や質的違いに着目して	○今城 志保 シヨンズ 藤村 直子 シヨンズ 佐藤 裕子 シヨンズ	(株)リクルートマネジメントソリュー シヨンズ (株)リクルートマネジメントソリュー シヨンズ (株)リクルートマネジメントソリュー シヨンズ
P242	SNSに対する態度における年代差と性差	○西村 洋一	北陸学院大学
P243	Web上での情報探索と態度変容	○中山 満子	奈良女子大学
P244	リオデジャネイロ・オリンピック大会と国民イメージ (2) —大会に関するメディア報道への接触の効果—	○佐久間 勲 日吉 昭彦	文教大学 文教大学
P245	テレビのおもしろさとは何か 現在と2000年頃の比較	○山下 玲子	武蔵大学

ポスター発表P2 第1日

P246	オンラインでのニュース接触と意見の極性化の関係	○北村 智 辻 大介	東京経済大学 大阪大学
P247	公共広告の描く世界 CMの全体的特徴	○山本 明	中部大学
P248	物語広告への共感をもたらす影響要因 登場人物との類似性による影響	○新井 範子	上智大学
P249	ナショナリズムがアメリカ主導の日米関係の肯定に与える影響	○柳 学済 唐沢 穰	名古屋大学 名古屋大学
P250	司法参加意欲の規定因：公正さ認知および主体・客 体意識の効果	○齋藤 真由 白岩 祐子 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学
P251	協調的幸福感の文化比較 フィリピン・日本・ポーランドの比較	○一言 英文 Magdalena Żemojtel-Piotrowska Jesus Alfonso Datu 内田 由紀子	福岡大学 University of Gdansk University of Hong Kong 京都大学
P252	自己利益と他者利益の調整についての比較文化的検 討	○富永 仁志 阿部 修士 内田 由紀子	京都大学・日本学術振興会 京都大学 京都大学
P253	中国文化要素の社会的スキル・トレーニングが日本人 大学生の行動にもたらす変化 —日本人観察者による評価の結果から—	○毛 新華 木村 昌紀	神戸学院大学 神戸女学院大学
P254	Responses to Vicarious Choice : Personal Evaluations and Perceived Consensus	○Charis Eisen Keiko Ishii	Kobe University Kobe University
P255	居住流動性が選択行動に及ぼす影響	○大藪 博記 宇都 憂香	鹿児島大学 鹿児島市役所
P256	ひきこもり支援に対する賛意とその背後にある心理的要 因の分析	○橋本 博文 沖 美魅 佐藤 剛介	安田女子大学 安田女子大学 名古屋大学
P257	格差が社会関係資本に与える影響	○稲葉 美里 高橋 伸幸 犬塚 敦也	関西大学 北海道大学 北海道大学
P258	人生の目的が低社会経済的地位者のやり抜く力 (grit) を維持する	○川本 大史 中島 健一郎 浦 光博	東京大学・日本学術振興会 広島大学 追手門学院大学
P259	人間関係のネットワークと精神的健康度との関連	○瀧森 涉 堀田 結孝	帝京大学 帝京大学
P260	ソーシャル・サポートと自由選択の感覚が Well-being に 及ぼす影響： サポート取得と自由選択の感覚の相互関連に着目して	○中里 直樹 森永 康子	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P261	社会的逆境からの回復に関する基礎調査 (5) PTSD 症状のリスク率と規定因	○高橋 幸子 安藤 清志 堀毛 一也 大島 尚	東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学

ポスター発表P2 第1日

P262	社会的逆境からの回復に関する基礎調査(6) —PTSD症状、逆境経験からの立ち直り、外傷後成長の規定因に関する日韓比較—	○陸 英善 高橋 幸子 安藤 清志 堀毛 一也 大島 尚 李 柱一	東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学 東洋大学 翰林大学
P263	居住地域によるwell-beingと年齢の関係の違い	○吉野 伸哉 小塩 真司 平島 太郎 伊藤 大幸 谷 伊織 川本 哲也 阿部 晋吾	早稲田大学 早稲田大学 愛知淑徳大学 浜松医科大学 東海学園大学 慶應義塾大学・日本学術振興会 梅花女子大学
P264	シニア世代におけるQOLの構成要因に関する探索的検討	○久田 満 新井 範子	上智大学 上智大学
P265	東日本大震災5年後の被災者の精神的健康と心的外傷後成長	○相羽 美幸 太刀川 弘和 袖山 紀子 高橋 晶	東洋学園大学 筑波大学 筑波大学 筑波大学
P266	犯罪被害者の社会的尊敬度が第三者の被害者非難に及ぼす影響 —状態自尊心の調整効果の検討—	○小島 弥生	埼玉学園大学
P267	公正世界信念が被害者に対する態度に与える影響 —犯罪不安とリスク認知に着目して—	○柴田 侑秀 森永 康子	同志社大学 広島大学
P268	親密な関係者間暴力被害者の専門機関相談意図	○島田 貴仁	科学警察研究所
P269	量刑判断に影響する因子に関する重回帰モデル(2) —生育歴・反省の程度と身勝手さが及ぼす影響—	○北折 充隆	金城学院大学
P270	災害への備えを阻害する心理的要因の検討 2014年広島市大規模土砂災害の事例に着目した分析	○前田 楓 橋本 博文	安田女子大学 安田女子大学
P271	原子力発電問題に対する市民参加意識(2) —市民主体と共考—	○辻川 典文	神戸親和女子大学
P272	リスクコミュニケーションの受け手の解釈に影響する要因 ① ～愛南町住民意識調査2013から～	○森岡 千穂	松山大学
P273	ペット同行避難に対するペット飼育者・非飼育者間の意識の差違 —首都圏の大学生を対象にした検討—	○清水 裕	昭和女子大学
P274	災害時におけるペット対策の規定因の検討 —人とペットの絆の観点から—	○松本 千香 坂田 桐子	広島大学 広島大学

P3 ポスター発表

第2日 (10月29日) 11:40 ~ 13:10

K棟1Fラウンジ

在席責任時間 奇数番号: 11:50 ~ 12:35 偶数番号: 12:15 ~ 13:00

P301	日常生活で意図的・無意図的に想起される自伝的記憶の性質 経験サンプリング法を用いて	○雨宮 有里 松本 昇 高 史明 杉山 崇	神奈川大学 京都大学・日本学術振興会 神奈川大学 神奈川大学
P302	上向きまたは下向き姿勢が潜在自尊心に及ぼす影響	○松崎 圭佑 落合 春一 沼崎 誠	首都大学東京 厚生労働省 首都大学東京
P303	自我脅威情報に対する防衛反応 「容姿の良さが人生の成功に及ぼす影響」に関する情報への反応の検討	○下田 俊介 大久保 暢俊	東洋大学 東洋大学
P304	Shift-Persist Strategy がやり抜く力 (Grit) に及ぼす影響: 社会人調査モニターを対象にした検討	○李 受珉 阿部 夏希 安部 主晃 中島 健一郎	広島大学 広島大学 広島大学 広島大学
P305	自尊心と安心さがしと対人関係目標が関係満足度に及ぼす影響	○長谷川 孝治	信州大学
P306	会話相手の性別が男性の自己呈示に及ぼす影響	○笠置 遊	立正大学
P307	室内の光環境とシャイネス特性が自己開示に与える影響	○賈 舒婷 相馬 敏彦 稲垣 (藤井) 勉	広島大学 広島大学 鹿児島大学
P308	主観的ウェル・ビーイング尺度間に関する整理・検討	○堀毛 一也 堀毛 裕子	東洋大学 東北学院大学
P309	ポジティブ感情への共感がボランティア行動の促進に及ぼす影響	○小池 はるか	東海大学短期大学部
P310	制御焦点が粘り強い課題取り組み姿勢に与える影響 —予防焦点傾向と制御不適合に着目して—	○長谷 和久	同志社大学
P311	成功を得た手段の望ましさが妬みに与える影響	○中井 彩香 沼崎 誠	首都大学東京 首都大学東京
P312	大学生活における恨みと不運選択によるシャーデンフロイデ喚起	○佐藤 栄晃 北村 英哉	関西大学 関西大学
P313	罪悪感の緩和に被害者からの赦しは有効か? —サイバーボール課題を赦しの操作に用いた検討—	○古川 善也 中島 健一郎	広島大学・日本学術振興会 広島大学
P314	軽蔑感情生起状況の探索的検討 —軽蔑経験の収集および分類—	○福田 哲也 蔵永 瞳	上智大学 滋賀大学
P315	道徳的な怒りと嫌悪は異なる感情反応か? —生理指標を用いた道徳感情の計測—	○小西 直喜 日道 俊之 大坪 庸介	神戸大学 高知工科大学 神戸大学



ポスター発表P3 第2日

P316	感謝感情・負債感情と返報行動の形式および実行までの時間との関係 一日中両国の比較研究を通して一	○林 楚悠然 相川 充	筑波大学 筑波大学
P317	感情伝達における非言語チャネル使用の普遍性	○曹 美庚 釘原 直樹	阪南大学 大阪大学
P318	経験サンプリング法を用いた情動持続時間の検討	○金子 迪大 鷹阪 龍太 尾崎 由佳	東洋大学 東洋大学 東洋大学
P319	他者の重要性と葛藤の内容が時間的距離感に及ぼす影響	○齋木 彩 田中 知恵	明治学院大学 明治学院大学
P320	“目”が向社会的行動に及ぼす影響：メタ分析による検討（6） 主観評価を用いた刺激の性質の調整効果の検討	○森 津太子 池田 まさみ 高比良 美詠子	放送大学 十文字学園女子大学 立正大学
P321	“目”が向社会的行動に及ぼす影響：メタ分析による検討（7） 個人特性が主観評価の調整効果に及ぼす影響の検討	○高比良 美詠子 池田 まさみ 森 津太子	立正大学 十文字学園女子大学 放送大学
P322	視点取得および被視点取得欲求についての調査 出来事の評価および自分の反応の想像しやすさに注目して	○鈴木 雄大 田中 知恵	明治学院大学 明治学院大学
P323	身体的温度感覚が他者との意思疎通の成否の予測に与える影響 ——透明性の錯覚課題を用いた検討——	○津村 健太 工藤 恵理子	帝京大学 東京女子大学
P324	因果応報観が寄付行動に及ぼす影響	○村田 光二	一橋大学
P325	評判と男性の短期配偶戦略との関連	○新井田 恵美 堀毛 一也	東洋大学 東洋大学
P326	上司のリーダーシップ行動とその適切性の認知が部下の上司評価に与える影響 —アルバイト部下の視点から—	○堀 遼太郎 田中 知恵	明治学院大学 明治学院大学
P327	表示媒体とフォントが作業成績と印象評価に与える影響	○小林 梨紗	立正大学
P328	経済悪化情報が高カロリー食品への潜在的/顕在的な選好/回避に及ぼす効果（1） —潜在的選好と顕在的選好の測度とBMIとの関係—	○沼崎 誠 井上 裕珠	首都大学東京 帝京大学
P329	経済悪化情報が高カロリー食品への潜在的/顕在的な選好/回避に及ぼす効果（2） —恋人の有無とBMIの調整効果—	○井上 裕珠 沼崎 誠	帝京大学 首都大学東京
P330	景気の知覚が女性の男性に対する好みに及ぼす影響	○竹部 成崇 村田 光二	一橋大学 一橋大学
P331	その笑顔は温かい？ 表情と温度の概念的関連性についての検討	○中嶋 智史 齊藤 俊樹 須藤 竜之介 請園 正敏 北神 慎司 高野 裕治	広島修道大学 東北大学 九州大学 国立精神・神経医療研究センター 名古屋大学 同志社大学

ポスター発表P3 第2日

P332	第三者が援助者を否定的にみる背景 —観察者の存在を手がかりとした利己的動機の推測—	○山本 佳祐 池上 知子	大阪市立大学 大阪市立大学
P333	スクールカーストは顔写真から推測可能か？ 卒業アルバムの個人写真を用いたカースト判断	○笹山 郁生	福岡教育大学
P334	自己概念の活性化と対人ネットワークが社会的比較傾向に与える影響	○大久保 暢俊 下田 俊介	東洋大学 東洋大学
P335	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (9) 心理的耐久性 (Durability) が精神的健康に及ぼす影響	○畑中 美穂 川上 正浩 小城 英子	名城大学 大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学
P336	大学での学業遂行と適応を支える心理的特性 (10) 大学新入生における心理的耐久性の推移	○川上 正浩 小城 英子 畑中 美穂	大阪樟蔭女子大学 聖心女子大学 名城大学
P337	死への態度と性格特性との関連 自己と大切な他者の死観尺度の信頼性と妥当性の検討	○河野 由美	畿央大学
P338	認知熟慮性テストは熟慮思考を促すのか	○横井 良典	同志社大学
P339	志望順位と入学に対する親の意向が学生の大学コミットメントに及ぼす影響	○野寺 綾 小平 英志 笹川 修 中村 信次 近藤 克則 ター 山崎 喜比古	福山大学 日本福祉大学 日本福祉大学 日本福祉大学 千葉大学・国立長寿医療研究センター 日本福祉大学
P340	大学に関する説明行為が大学への説明者自身の評価に与える影響 (1)	○太幡 直也 菅 さやか 宮本 聡介	愛知学院大学 愛知学院大学 明治学院大学
P341	大学に関する説明行為が大学への説明者自身の評価に与える影響 (2) —説明の有無の比較—	○宮本 聡介 太幡 直也 菅 さやか	明治学院大学 愛知学院大学 愛知学院大学
P342	2者から異なる方向に説得される場面における被説得者の認知資源と態度変容プロセスの関連の検討	○中村 早希 三浦 麻子	関西学院大学 関西学院大学
P343	人々は存在論的恐怖への対処にどのような行動を選択しやすいのか —死の不安緩衝装置の相対的重要度に着目した検討—	○戸谷 彰宏 中島 健一郎	広島大学 広島大学
P344	旅は憂いもの辛いもの？ 大学生の一人旅イメージの分析	○林 幸史	大阪国際大学
P345	大学2-4年次の精神的健康の低下に対する1年次の主観的ソーシャル・キャピタルの影響	○芳賀 道匡 笹川 修 小平 英志 中村 信次 山崎 喜比古 近藤 克則	日本大学 日本福祉大学 日本福祉大学 日本福祉大学 日本福祉大学 千葉大学
P346	被援助経験がもたらすネガティブな効果	○阿久津 豪史	学習院大学

ポスター発表P3 第2日

P347	援助場面における感謝表出が傍観者に及ぼす影響 —傍観者の援助行動に焦点を当てて—	○後藤 祐起 蔵永 瞳	滋賀大学 滋賀大学
P348	貢献感、互惠性規範、援助要請の日米比較	○橋本 剛	静岡大学
P349	暴力への潜在的態度の測定指標に関する信頼性と妥当性の検討	○戸高 美佳 荒井 崇史	追手門学院大学 追手門学院大学
P350	攻撃性の高低によって個人的・対人的な行動や思考はどう変わるか 攻撃性の高い者と低い者のライフスキルの傾向に注目して	○嘉瀬 貴祥 上野 雄己 大石 和男	立教大学 日本学術振興会 立教大学
P351	親密なパートナーに対する暴力加害の構造 様々なIPV形態に基づく類型と性差	○喜入 暁	法政大学
P352	社会的共有相手の受容的反応が葛藤対処に及ぼす影響 —葛藤相手と社会的共有相手との三者関係に注目して—	○吉田 琢哉	岐阜聖徳学園大学
P353	着装の逸脱による心理的变化に関する一研究	○松原 詩緒	文化学園大学
P354	女性が敏感肌を自覚する心理的要因 (2) 敏感肌の自覚に影響する要因	○栗原 茂	筑波大学
P355	「時間を経ての想起シーン」と世相分析への社会心理学的考察 —大学群をデータとして活用—	○糸魚川 幸宏	ウィズダム・インク
P356	シャイネスに関する自己理論の日米比較	○稲垣 (藤井) 勉 澤海 崇文 相川 充	鹿児島大学・NPO法人教育テスト研究センター (CRET) 流通経済大学・CRET 筑波大学・CRET

P4 ポスター発表

第2日 (10月29日) 11:40 ~ 13:10

西2福利会館

在席責任時間 奇数番号 : 11:50 ~ 12:35 偶数番号 : 12:15 ~ 13:00

P401	なぜ社会経済的地位の高さは優先関係を無視した横断行動を予測するか	○紀ノ定 保礼 清水 裕士	静岡理工科大学 関西学院大学
P402	社会性の有無におけるセルフ・モニタリングへの影響要因の検討 — 社会規範の探索的研究 (19) —	○岩淵 千明 小牧 一裕 森上 幸夫	川崎医療福祉大学 大阪国際大学 大阪国際大学
P403	自己概念と他者からの評価の一致度と心理的適応 自己洞察を介した自他一致度から抑うつへの間接効果	○中島 実穂 丹野 義彦	東京大学・日本学術振興会 東京大学
P404	大学生間での他者操作における依頼的方略と拒否的方略の探索的検討	○木川 智美	昭和女子大学
P405	親密な対人関係の形成に及ぼすコミュニケーションメディアの影響に関する研究	○上野 裕介 坂田 桐子	広島大学 広島大学
P406	大学生のLINE利用目的尺度作成の試み	○岡本 香	東京福祉大学
P407	女性美に対する日本人若年女性の価値観 10-20代の女性が捉える女性美の構造	○山田 雅子	埼玉女子短期大学
P408	人格の類似性が対人魅力に与える効果を自尊感情が調整するか?	○松木 祐馬	早稲田大学
P409	性差観が異性の外見の好みに及ぼす影響	○栗林 克匡	北星学園大学
P410	女性の身体的魅力における相補性の検討 かわいい人と美人に着目して	○宗像 愛	千葉大学
P411	Radiating Beautyにおける親密度認知の重要性	○貴島 侑哉 笹山 郁生	福岡教育大学 福岡教育大学
P412	家族と男女の進化心理学を追試する Hasleton & Buss (2001), Salmon & Daly (1998), and Laham et al. (2005)	○平石 界 野口 貴滉 高橋 沙英 豊生 紗也 曾根 のぞみ 田村 幸大 宮川 彩花 鈴木 絵美 布川 結望 渡辺 春菜	慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学 慶應義塾大学
P413	父親の育児ストレスと育児行動が父親アイデンティティに及ぼす影響	○山下 倫実 石田 有理 加藤 陽子	十文字学園女子大学 十文字学園女子大学 十文字学園女子大学
P414	新たな友人関係の疎遠化 (自然消滅) の原因に関する研究	○水野 邦夫 原 聡美	帝塚山大学 阪和記念病院

ポスター発表P4 第2日

P415	家族成員の相互評定に含まれる偏向を推定する	○小杉 考司 清水 裕士 石盛 真徳 藤澤 隆史 武藤 杏里 平川 真	山口大学 関西学院大学 追手門学院大学 福井大学 早稲田大学 広島大学
P416	若年者の未婚要因に関する探索的検討 (1)	○小浜 駿 和田 佐英子	宇都宮共和大学 宇都宮共和大学
P417	コミュニティに対する帰属心の形成要因の検討	○大戸 朋子 塚常 健太 新井田 統	KDDI総合研究所 KDDI総合研究所 KDDI総合研究所
P418	教育アスピレーション形成メカニズムの検討 親子関係に着目して	○中村 聖 敷島 千鶴	帝京大学 帝京大学
P419	配偶者の存在が乳児の泣き声に対するストレス反応に与える影響	○平岡 大樹 宮坂 まみ 野村 理朗	京都大学 京都大学・日本学術振興会 京都大学
P420	意味づけ過程におけるソーシャル・サポートの役割	○上條 菜美子 湯川 進太郎	東京成徳大学 筑波大学
P421	居住地域を内集団とする集団内関係性認知が集合効力感および行動意図に及ぼす影響	○塩谷 尚正 奈田 哲也	関西国際大学 京都橘大学
P422	集団フォーマル性尺度 (中学生・高校生版) の開発 (3) —高校生対象の検証—	○新井 洋輔 市村 美帆 清水 直樹	東京福祉大学 目白大学 文京学院大学女子中学校高等学校
P423	成員の迷惑行為への組織対応が他の成員におよぼす影響 (2)	○磯部 智加衣	千葉大学
P424	女性アイデンティティがジェンダー適合的商品の評価に与える影響	○田中 友理 唐沢 穰 大平 有紀 日置 孝一	名古屋大学 名古屋大学 名古屋大学 神戸大学
P425	過剰な利他主義者は評判を獲得できるか (1) —シナリオ実験に基づく検討—	○河村 悠太 楠見 孝	京都大学・日本学術振興会 京都大学
P426	関係維持行動に対する機会コストの効果 —パートナーの非協力行動への「矯正」行動に対する機会コストの効果—	○真島 理恵 高橋 伸幸	北海道医療大学 北海道大学
P427	「うまくいくといいね」声掛けするのは誰？ 硬直化した社会的場の変容に対するシグナルとしての声掛け	○片山 美由紀	東洋大学
P428	認知的負荷が集団意思決定に及ぼす影響	○今村 夕貴 釘原 直樹	大阪大学 大阪大学
P429	定量的指標を用いた集団極化の検討	○青木 香保里 木谷 圭一 辻 勇士 藤井 結佳利 釘原 直樹	大阪大学 大阪大学 大阪大学 大阪大学 大阪大学

ポスター発表P4 第2日

P430	菓子と飲料が集団創造性に及ぼす効果2：アイデアの質的検討	○飛田 操	福島大学
P431	部下からの被信頼が上司にもたらす心理的効用 ストレスや動機づけへの直接効果と絆の効用や自尊心を介した間接効果	○藤原 勇	京都橘大学
P432	職場における自尊心と知識提供動機 自己価値の随伴性と有機的統合理論による検討	○向日 恒喜	中京大学
P433	ネガティブ・フィードバック後の部下の反応と上司の変化 コミュニケーションの相互作用性に着目した検討	○繁樹 江里 林 直保子	青山学院大学 関西大学
P434	LINEにおける4種類のネガティブ感情が生じるまでの返信の待ち時間 ～既読状態と未読状態の比較～	○加藤 由樹 小澤 康幸 加藤 尚吾	相模女子大学 明星大学 東京女子大学
P435	LINEスタンプの役割の評価に関する性差とLINE依存度による違い	○加藤 尚吾 小澤 康幸 加藤 由樹	東京女子大学 明星大学 相模女子大学
P436	子どものデジタルゲーム利用に対する保護者の意識、介入行動 (7) — ゲームを通じた交流に対する意識 —	○田島 祥 堀内 由樹子 松尾 由美 寺本 水羽 坂元 章	東海大学 お茶の水女子大学 関東短期大学 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学
P437	文化的自己観がメッセージ受容に与える影響 日本の大学生を対象とした分析	○寶 雪	立命館大学
P438	新聞はCOP21をどのように伝えたか — マスメディアにおける環境問題報道の内容分析 (2) —	○川端 美樹	目白大学
P439	金銭的負担を軽減する社会制度に関する研究 機会損失による損失感解消行動の増加	○若山 大樹 高田 響平 真殿 めぐみ 徳永 詩音	駒澤大学 駒澤大学 駒澤大学 駒澤大学
P440	サンプルの属性は福島県産農産物の購買を規定するか? (2) — 交互作用項を投入することによる3つの調査データの再検討 —	○工藤 大介	(公財) 大原記念労働科学研究所
P441	登山動機と登山の意味	○岡本 卓也	信州大学
P442	嗜好品関連行動が有する心理学的機能の探索的検討	○横光 健吾 金井 嘉宏 平井 浩人 佐藤 健二 坂野 雄二	(公財) たばこ総合研究センター 東北学院大学 (公財) たばこ総合研究センター 徳島大学 北海道医療大学
P443	ルーマニア人と日本人の道徳基盤	○Claudia Gherghel 橋本 剛 Dorin Nastas	名古屋大学 静岡大学 Cuza University
P444	面子の共有についての日中比較 日本人と中国人の親を対象に	○林 萍萍 米谷 淳	神戸大学 神戸大学

ポスター発表P4 第2日

P445	異文化態度形成の因果モデルに関する検討 日韓比較調査を用いて	○申 知元 潮村 公弘	青山学院大学 フェリス学院大学
P446	沖縄県系人の価値観に関する研究 —沖縄県民・北米在住沖縄系移民・中南米在住沖縄系移民の比較—	○前村 奈央佳 加藤 潤三	神戸市外国語大学 琉球大学
P447	大学生のアルバイト就労が精神的健康と睡眠に及ぼす影響 若年労働者および勤務形態（日勤・夜勤）との比較	○高本 真寛	横浜国立大学
P448	利他的・利己的な状況が不正に及ぼす影響：命令的規範は不正抑止につながるか	○前田 洋光 鈴木 郁美	京都橘大学 京都橘大学
P449	日本の若者における喫煙行動と父母及び友だちの喫煙	○三好 美浩	岐阜大学
P450	Attitudes Toward Lesbians and Gay Men Scale 日本語6項目版（ATLG-J6）と原著との関連の検討	○堀川 佑惟 岡 隆	日本大学 日本大学
P451	韓国の成人男女における Ambivalent Sexism	○宇井 美代子 小田切 紀子 古村 健太郎 兪 善英 松井 豊	玉川大学 東京国際大学 弘前大学 韓国教育開発院 筑波大学
P452	大学生の男性役割態度に対する父母の属性および性別役割態度の影響 男性役割の9側面を踏まえて	○渡邊 寛	筑波大学・日本学術振興会
P453	高齢者の友人関係と老いへの適応的受容 —精神的健康との関わり—	○鉄川 大健 田中 共子	岡山大学 岡山大学
P454	シニアの加齢適応（1） 自己愛傾向とユーモア対処が援助要請に及ぼす影響	○阿部 晋吾 太田 仁	梅花女子大学 梅花女子大学
P455	シニアの加齢適応（2） 性別と同居人数による社会的自立の差異	○太田 仁 阿部 晋吾	梅花女子大学 梅花女子大学
P456	高齢者の家庭内外での社会的活動の類型化とその関連要因 潜在クラス分析による活動類型の検討	○菅原 育子 小林 江里香 所	東京大学 東京都健康長寿医療センター研究所
P457	主観的well-beingに影響を与える要因の考察 ～年齢とストレスコーピング行動類型を要因とする考察～	○中嶋 励子	東京女子大学
P458	高齢者の認知機能低下に対する家族の関心 —高齢者とその家族のデータから—	○水上 喜美子 川口 めぐみ 田中 悠二 東間 正人	仁愛大学 福井大学 福井大学 福井大学
P459	司法解剖が死者に対する心の知覚に及ぼす影響	○白岩 祐子 齋藤 真由 橋本 剛明 唐沢 かおり	東京大学 東京大学 東京大学 東京大学

ポスター発表P4 第2日

P460	ストーカーについての実態調査 (5) —ストーリーキング被害リスク要因に関する探索的検討—	○荒井 崇史 島田 貴仁 石田 仁 山本 功 金政 祐司	追手門学院大学 科学警察研究所 日工組社会安全研究財団 淑徳大学 追手門学院大学
P461	犯罪不安は抑止動機に基づく処罰をうながすか	○中川 知宏	近畿大学
P462	TRPGを利用したコミュニケーション能力促進支援 定時制高校におけるキャリア教育可能性の検証	○佐々木 大輔	市立札幌大通高等学校
P463	木に対する心的機能の帰属が環境配慮に及ぼす影響	○坂本 剛	名古屋産業大学
P464	無作為抽出と熟議の反復がエンパワメントに及ぼす 影響	○前田 洋枝	南山大学
P465	健康生成モデルにおいて情報処理スタイルと首尾一貫 感覚がストレス反応に与える影響 その2 —クラス分析を用いて—	○今井田 貴裕 大浦 真一 松尾 和弥 福井 義一	甲南大学 甲南大学 甲南大学 甲南大学
P466	大学生の不適応行動の捉え方	○青陽 千果	北星学園大学
P467	発表取消		
P468	家族樹形図療法の実際	○高山 智 天田 陽子	青山学芸心理 青山学芸心理
P469	ネットいじめ目撃者の非当事者攻撃に関する研究 —学級集団を内集団とした検討—	○黒川 雅幸	愛知教育大学
P470	専攻学問に対する価値と大学生活充実感の関連	○松本 明日香 小川 一美 斎藤 和志	愛知淑徳大学 愛知淑徳大学 愛知淑徳大学
P471	ペット飼育経験とペットへの愛着が心理的耐性に与える 影響	○戸口 愛泰 小牧 一裕 森上 幸夫 青野 明子 林 幸史	大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学 大阪国際大学
P472	授産製品の購入に影響を与える諸要因 援助規範意識および倫理的消費に対する態度は、授 産製品購入に影響を与えるか	○岩井 阿礼	淑徳大学
P473	親は、その子供を所有している？ or 所有していない？ —米国白人、日本人、スウェーデン人、米国黒人に 対する質問紙調査から—	○早瀬 光司	広島大学